

アオハルってやんよ！！ うちの人生レベチで 3150 マジ tkmk!

登場人物

安藤美咲 (17)

主人公。歌手を夢見ている女子高生。この世界に、何か自分の生きた証、存在していた証を残したいという思いがある。

性格は明るく。いろんな人と仲良くなる事が出来るが、本当の友人という友也と香苗しかない。気に入った人間にお手製のミサングをプレゼントすることが好き。そのミサングにその人の願いが叶うことを願っている。

交通事故により無くなった後、未練を残しこの世に魂を残している。

川村友也 (17)

美咲の幼馴染。長いこと美咲に片思いをしているが、今の関係を崩す方が怖いと思い、仲のいい友人という形で落ち着いている。

美咲に恋愛という考えがなく、そのことに残念に思いながらも、安心している。美咲からミサングを送られた人間の一人。美咲の夢を応援するという願いをミサングに込めている。そのことを美咲に伝えていない。

事故の時、美咲のそばにいたのに助けられなかった事を後悔し、死後の美咲の願いを叶えることを誓う。

不波香苗 (17)

美咲の高校からの友達。美咲のことが大好きで、幼馴染である友也が仲良くするのを快く思っていない。何かと友也にかみついてくる。

美咲からミサングを送られた人間の一人。ずっと美咲と仲良くしていたという願いをミサングに込めている。事故の時一緒にいた友也を強く攻め立てる。

仁枝麗奈 (17)

不波香苗の友人。中学から友達だったが、香苗が美咲と仲良くなり始めてから自分と遊んでくれなくなったことに、強く嫉妬している。

香苗に自分のことを見てほしいと常に思っている。

田邊和弘 (死亡時 25) 若くして亡くなった時子の父親。その姿はなくなった時のまま若い姿。亡くなった美咲の墓のお隣さんで、死後世界のことをいやいや教えている。乱暴な口調だが、面倒見がいい人物。若くして亡くなり、娘に何も残せてあげられなかったことを未練にこの世に残っている。本人はそのことを忘れている。

田邊時子 (20)

和弘の娘。大学2年生。幼いころに父親を亡くしているため、あまり父親のことを覚えていない。女で一つで大学まで行かせてくれた母親に楽に生活してほしいと、あらゆる努力をし、

学費免除や奨学金などを受け取ることが出来るほど優秀な人物。
ふと自分の人生はこれでもいいのかと考えることがあり、心に小さなしこりを持っている。

安藤美知子 (50)

美咲の母親。美咲には幸せになつてほしいと願っている。歌手になることを反対しており、良い大学にでて、良い会社に就職して真つ当な社会人としての安定した、幸せな人生を歩んでほしいと考えているため、美咲とよくケンカになっている。

美咲は自分と喧嘩した後、事故にあつたため、美咲が死んだのは自分のせいだと後悔している。そこにナイトメアに付け込まれる。

川村洋子 (37)

川村友也の母親。将太の代わりに家計を支えている。今の将太に対して、愚痴や、悩み、泣いたりもしているが、いざ話を聞くと将太のいいところばかり話し、結果的に仲のいい夫婦なんだと友也に気付かせる。

川村将太 (37)

川村友也の父親。飲んだくれのギャンブル好き。友也に嫌われていることを自覚しているが、構わず友也と接する。

ナイトメア

「故人、宿します」という現実には存在しない店を経営している。その正体は人々の願望から生まれ、噂により存在は確立させた一つの現象。ゆえに決まった姿形はなく。性別も存在しない。亡くなった人の魂を保護し、その人物を愛している人物に契約を迫る。

「クーリングオフは」日まで、契約が成立した時点で、契約者の記憶と引き換えに亡くなった人物を生まれ変わらせます。

生まれ変わった時、契約者は蘇らせた人物の記憶をすべてなくします。」

本来魂を保護できる期間は「週間だが、今回は別の力により魂が残っているらしい。契約者にゆっくり考えるよう促す。

影の男

死後の美咲にアンケート本を託した。その姿はおぼろげで認識が出来ないが、美咲の感では悪い人ではない見たい。美咲にその本を手放さずと持っているようにと念を押している。

シーン0 ミサングの願い事

日の暮れた学校。文化祭終わり。外では後夜祭をしている他の生徒たち。キャンプファイヤーを囲んで過ごしている。その輪に加わっていない二人。美咲と友也が教室の一つで二人で話している。

美咲 これあげる。

友也 なにこれ？

美咲 ミサングだよ。知らないの？

友也 いや知ってるけど、手作り？

美咲 そう！ 私が一生懸命作りしました！ 私のミサング友達の第一号だよ。

友也 ミサング友達ってなんだよ。

美咲 あたしがミサングを上げる友達。ズッ友の証だよ！

友也 ふーん。

美咲 なに？ うれしくないの？

友也 お前とずっと友達ってのも考え物だな。

美咲 お？ そしたらいららないの？

友也 要らないなんて言っただけ。

美咲 素直じゃないなあ。とも君

友也 とも君って呼ぶな。美咲。

美咲 もう、昔はもつとかわいかったのになあ。あたしの事ミーちゃんって呼んでくれて

友也 たのに。

友也 もう高校生だぞ。いつまでもそんなの恥ずかしい。

美咲 遅れてきた思春期だね。

友也 うるさい。捨てるぞ。

美咲 ごめんごめん。これからずっと外しちゃだめだからね？ トイレの時も、お風呂の時も。

友也 そんなことしたらすぐダメになるだろ。

友也 そんなことしたらすぐダメになるだろ。

ぶつぶついいながらミサングを腕に巻く友也

美咲 ダメにしているの。ミサングってのは、いつか切れるようになってるの。

友也 なんて。

美咲 ミサングにはお願い事をして腕に巻くの。それでいつか切れた時が、願い事が叶った瞬間ってわけ。

友也 ふーん。

美咲 友也にあげた青色は大きな夢をかなえることが出来る色だよ。ほら、なんか願い事込めて！

友也 んなこと急に言うなよ！

美咲 いいから！ ほら！ 願い事込めるタイムが終わっちゃう！

友也 そんなんないだろ絶対！
美咲 ほら！
友也 分かった、分かった。んー、ほら、願い込めた！
美咲 なんの願いにしたの？
友也 教えない。教えたら叶わなくなりそうだし。
美咲 えー！ ケチー。大丈夫だよー多分ー。
友也 多分じゃねえか！ ふざけんな！
美咲 んー。まあいいや。ねね、見て。私の赤も同じ大きな夢をかなえるやつなの。
友也 ふーん、美咲の夢って？
美咲 決まってるでしょ？ 歌手として世界中に私の歌声を届ける事！ ニルヴァーナ
友也 のカート・コバーンみたいな世界的アーティストになるのが私の夢。
美咲 お前ほんとニルヴァーナ好きだよな
美咲 うん。大好き！
友也 世代じゃないだろ？
美咲 世代じゃないけどー。友也も聞いてみたらいいよ！ アルバム貸してあげるから
さ！ ネバーマインドとかが最初はいいかもなー。これのリード曲のスメルズ・ラ
イク・ティーン・スピリットとか超いいよ！ ほら聞いてみなって！

スマホを友也に向ける。

友也 はいはいはいはい、今はいいって！
美咲 じゃ、こんど CD 貸してあげる！ 聞いたら140字詰め原稿用紙に感想を書
いてくること！
友也 面倒くさいから嫌だよ。
美咲 面倒くさくない！
友也 ……感想とか俺苦手なんだよ。
美咲 感想も言わないと、自分の中で本当の意味で芸術を落とし込めないんだよ！ そ
んなのはロックに対する冒涇だと私は思うね！
友也 お前、いろいろとめちやくちやだぞ……。
美咲 それが私です。
友也 そうだな。
美咲 私もカートみたいにな、ロックに生きて、27歳で死にたいなあ。
友也 早すぎだろ。27歳なんて何にもできないぞ。
美咲 それぐらいの勢いで生きたいの。命を燃やして音楽やって、世界中のみんなに私の
存在を刻みつけて、いきなり死んで、私の事忘れられなくさせてやるんだ。
友也 あー、はいはい、がんばってな。
美咲 んー、応援するならちゃんとしてよ
友也 はいはい。お前ならできるよ。ロックスター。
美咲 皮肉にしか聞こえない！
友也 あはは。

美咲 友也のお願いは？
友也 教えない。
美咲 つく、この流れならいけると思ったのに。
友也 なんでそう思ったんだよ。
美咲 いいじゃん。教えてよー。
友也 くどい。
美咲 これはそういうのじゃないからー！
友也 叶わなかったら困るから。絶対言わない！
友也 ねええええ！ 友也ああああ！

教室から飛び出して、美咲から逃げる友也。追いかける美咲。

シーン1 反対

○美咲の家。母親の美知子と対峙している美咲。

美知子 だめよ。
美咲 なんで？
美知子 歌手なんて、なれるわけじゃないでしょ。
美咲 そんなのやってみないとわからないじゃん！
美知子 時間の無駄だって言ってるの。
美咲 無駄なんかじゃない！ あたしが決めた生き方を無駄なんて言わないで！
美知子 そんなこと考えるより勉強しなさい。
美咲 勉強もするよ！ 音楽とおんなじくらいやるから！
美知子 だったら、音楽やる時間も勉強に宛てなさい。そうすれば、誰からにも愛される立派な人間になれるから。
美咲 そんな風に愛されるくらいなら、嫌われてもいいからやりたいことをやりたい。
美知子 あのね……。
美咲 聞きたくない！
美知子 ……。

美咲は家を出ようとする。

美知子 美咲？
美咲 お母さんはあたしの事何にも理解してない。まるで、他人みたい。

美咲は家を出ていく。

美知子 はあ。あなたのせいなんだからね。音楽は私たちを不幸にするんだから……。

部屋を出ていく美知子

○友也の家

喧嘩している声。洋子と将太。その声を聴いている友也。

洋子 またなの？ もういい加減にしてよ！

将太 俺が稼いだ金を俺がどう使おうが何も問題ねえだろ！

洋子 日雇いのアルバイトでちよつと稼いだだけでしょ？ 昼間からずつとお酒飲んで、

新しい就職先探すとかしてよ！

将太 うるせえな！

洋子 あなたがそんなんで、友也がぐれたりしたらどうするの？

将太 そんなの、友也の勝手だろうが、あいつの好きにさせたらいいだろ。

洋子 そうじゃないでしょ。もつと父親らしくできないの？

将太 お前より稼ぎがすくねえ、家事もできねえ。ああ、親として俺は最低だなあ！

洋子 開き直らないで！ 私がつつも、どんな思いで……。

家を出ていく洋子

将太 っち。おい、友也あ。友也あ！

友也 なんだよ。うるせえな。

将太 親に向かってなんだ。その態度は。誰に食わせてもらってると思ってるんだ。

友也 今は、母さんだ。

将太 ……。はは、そうだな。ああそうだよなあ！ こんなんじや。親なんて言えねえな！

友也 おい、飲みすぎだぞ、いい加減に……。

将太 うるせえ！

友也 ……。

将太 どいつもこいつも。夢なんか下らんだの、まじめにやりやつまらんだの。俺は、て

めえらのおもちやじゃ……。

ぶつぶつつぶやきながら、部屋を出ていく。

友也 何の話だよ。はあ……。くそ……。

家を出ていく友也。

シーン2 突然の別れ

○路上

家から飛び出した美咲。

美咲 ……。ばか。

向かいから友也がやってくる。

友也 美咲？ 何やってんだこんな時間に。
美咲 あんたこそ。
友也 俺は……。親父に酒買って来いって言われて
美咲 酒？ 未成年は買えないよ？
友也 知ってるよ。
美咲 じゃあ、なにしてんの？
友也 適当に時間つぶすんだよ。ほっとけば勝手に寝るだろ。
美咲 ふーん……。
友也 ……なんかあったのか？
美咲 え？ なんで？
友也 いや、なんか、なんとなく。
美咲 なに、友也。あたしの事大好きかよ。
友也 はあ？ なんでそうなるんだよ！
美咲 だって、友也がエスパーみたいなこと言うから。
友也 お前は本当に。そういうとこだぞ。
美咲 あはは。実はね。家出してきた。
友也 なんて。
美咲 お母さんと喧嘩しちゃった。
友也 ふーん。
美咲 三者面談あったじゃん。そのとき先生に歌手になるって言ってやったの。でね、その後、家でお母さんに反対されちゃった。
友也 歌手はダメだったか。
美咲 うん……。
友也 なるほどな。
美咲 お母さんは私に意地悪してるんだ。私の事好きじゃないから。
友也 ……。
美咲 ごめんね。友也には関係ないのに。
友也 諦めるのか？
美咲 そんなわけない。
友也 なら、そんな言葉気にするなよ。
美咲 え？
友也 気にするなよそんなの。夢追うってそういうもんだろ。
美咲 ……。
友也 少なくとも、お前の夢を信じて応援してる奴は、ここにいるからさ。
美咲 ……。そうだね。ありがとう！ 友也！
友也 おう。
美咲 友也は？ 三者面談したんでしょ？ 進路どうするの？

友也 ああ、俺は……。いや、何にも決めてねえ。
美咲 そうなの？
友也 ああ、何にもやりたいことなくてな。
美咲 ダメだよー。若いうちにやりたいこといろいろ見つけとかないと、大人になった時にいざ見つかっても時間がなくてできなくなったりするんだから。
友也 嫌に詳しいな。
美咲 いろいろ考えてますから。
友也 すぎえな。
美咲 友也も考えるの！ ほら、相談乗るよ。
友也 いや、いいよ。俺は、自分で考えるから。
美咲 そんなさみしいこと言うなよー！ 幼馴染だろー！
友也 ああ、もううっとうしい！
美咲 ねええええ！ 友也ああああ！
友也 いいって言ってるんだろ！

美咲を突き飛ばす友也。

美咲 あ、ごめん……。
友也 いや……。
美咲 あはは、あたし、ちよつとトイレ行ってくるね！
友也 おう。
美咲 ちよつと待っててねー！
友也 おい！ 美咲！
美咲 え？

事故にあう。

友也 美咲……？

騒がしい音。事故に気付いて周辺住民が集まってくる。

友也 待って……。待って！ 美咲！

救急車の音。

シーン3 超えた想いの頼み事
何もない空間
美咲が一人佇んでいる。気が付く美咲

美咲　ん？　あれ？　ここどこ？　ん。友也ー。友也ー！　あれえ？

美咲の目の前に影が現れる。

美咲　え、なに？　誰？

影は自分の口元に指をあてると、静かにというジェスチャーをする

美咲　う、うん。

影は美咲に一冊の本を手渡す。

美咲　本？

影から本を受け取る美咲

美咲　これをあたしが持っていればいいの？

影は静かにうなづく。

美咲　え、ずっと？　んー。いいよ。持っていてあげる。いつか取りに来るんでしょ？

影は静かにうなづく。

美咲　オッケー。大切にするね。

影は去ろうとする。

美咲　ねえ。あんたって不思議だね。全然怖い感じしないの。

影は笑ったような雰囲気、ひらひらと手を振って消えていく。

美咲　またねー！

美咲の意識が途切れる。

シーン4　追悼

○学校

下校時間。クラスメイトが友也に挨拶をしている。

友也 おう、じゃあなー。

友也の前に不破香苗、仁枝麗奈が現れる。

友也 不破。

香苗 なんで、そんなに笑ってられるの？

麗奈 香苗ちゃん。

友也 どういう意味だよ。

香苗 美咲が死んだんだよ！ なんで、そんなに平気そうな顔でいられるの！

友也 ……はあ？

香苗 なんで、普通にほかの男子としゃべったり、普通にご飯が食べられたり、なんで、笑ったり出来るの！？ おかしいでしょ！ 美咲はあんたの幼馴染なんじゃないの！

麗奈 ご、ごめんね。川村君。香苗、安藤さんが亡くなってからずっと、調子が悪くて。

友也 いや、いいよ。

香苗 事故の直前もあんたと一緒にいたんでしょ。なんで、助けてくれなかったの……。

友也 ……。

香苗 あんたが……。あんたが殺したんだ。美咲を見殺しにした。この……人殺し！

麗奈 香苗ちゃん！ もう行くよ！

香苗 あんたが、あんたがもつとちやんとしてれば！

麗奈が香苗を無理やり引っ張り去って行く

友也 人殺し……。

シーン5 グッドモーニング

○墓地

目が覚める美咲。周りを見渡すとそこはお墓。手には一冊のアンティーク調の本。そばではお墓にお祈りしている時子

美咲 あれ？ あたし寝てた？ なんでお墓？ んー？ ん？ 何この本？ んー、何

にも思い出せない……。あ、あの！

お参りしている時子に話しかけるが反応がない。

美咲 あの？ 聞こえてますか？ すいませんー？

時子はそのまま美咲の前を素通りして帰っていく。

美咲 無視された。なんで？ んー。あのー！ 誰かいませんかー！ 誰かー！
墓石の陰から、和弘が出てくる。

和弘 さつきからうるせえぞ！
美咲 わー！ ごめんなさい。ごめんなさい！
和弘 っち。クソガキが…。
美咲 えー。こわい……。あ、あの！
和弘 なんだよ？
美咲 あ、えっと、あの、ここどこですか？
和弘 あ？ どこって墓だろ。
美咲 そ、そうですね……。
和弘 お前何も覚えてないのか？
美咲 えっと、はい。すみません。お参りの邪魔でしたよね。
和弘 ちげえよ。お前も一緒だろが。
美咲 一緒？
和弘 はあ、なんで俺がこんなことを……。
美咲 ああ、一緒ってどういう……。
和弘 だからお前は……。
美咲 あ！

友也が歩いてくるのを見つける。友也に向かって駆け出していく

美咲 友也！
和弘 おい！ やめとけ！
美咲 大丈夫！ 幼馴染だから！

友也のところへ駆け出して美咲

美咲 友也！ よかったー！
友也 え？ は？ ……美、咲……？
美咲 なんか、知らないうちにこんなところにいるさー。一緒に帰ろうよ！
友也 本当に、美咲なのか？
美咲 そうだよ？ どうしたの友也？
友也 なんているんだよ……。
美咲 なんて。それあたしも知りたんだけど。
友也 美咲は死んだはずだよ！
美咲 え？

友也 美咲は、俺の目の前で、車に撥ねられて、死んだ。なのになんで、あの時と同じ格好で俺の目の前にいるんだよ！

美咲 撥ねられた？ またまたー。んなわけ……。え、あれ？
和弘 少しは思い出したみたいだな。
美咲 やだ。怖い。思い出したくない。
友也 美咲？
美咲 暗くて、寒くなって……。友也。あたしを一人にしないで……。
友也 美咲！

懇願する美咲を思わず抱きしめようとするが、すり抜けてしまつて触ることが出来ない。

友也 なんで、くそなんで触れないんだよ！
美咲 友也あ……。
和弘 おい、クソガキ。よく聞け。
美咲 え？
和弘 お前は死んだ。今のお前はいわゆる幽霊つてやつだ。だから、お前はこいつに触れることはできない。死者は、生者とは本来関わることはできないからな。
美咲 でも友也はあたしの事見えてるんだよ？
和弘 それはな……。
友也 美咲。さつきから誰と話してんだ？
美咲 え？ 誰つて、このお兄さんだよ。見えないの？
友也 俺には見えない。
美咲 え。
和弘 俺も同じなんだよ。お前と同じ幽霊だ。
美咲 そんな。
和弘 これで納得できたか？ お前は死んだ。お前はもう、こいつと触れ合うことはできないんだよ。
美咲 そんな……。いや、いやだ。いやだよ！

何度も触れようとするが、すべてすり抜けてしまう。

友也 こんなことが……。
美咲 友也……。死んじゃつたつて。あたし嫌だよお。
友也 ……。美咲……。
和弘 受け入れろ。もう変えられねえ。お前の人生は終わったんだよ。
美咲 いやだああああ！

シーン6 故人、宿します。

○美咲の家。暗い部屋。部屋の中で美知子かうずくまっている。そこに、影からナイトメア（メア）が現れ、美知子に声をかける。

メア こんにちは。

美知子 ……え？ 何、誰あなた。
メア 私、こういうものです。

メアは自身の名刺を美知子に手渡す。

美知子 故人宿します。ナイトメア？

メア はい、私、この店のオーナーのメアと申します。以後お見知りおきを。

美知子 店？

気が付くと空間が店の内装に変化している。

美知子 あれ、ここどこ？ 私の家は？

メア ここは私の店ですよ。

美知子 店？ でも私は家で……。

メア 心中お察しします。最愛の娘さんが亡くなってしまったのですもんね。つらいですよ。悲しいですよ？ ましてや、あんなお別れの後で。

美知子 ああ、そうか。夢か。そうよ。全部夢。起きたら、あの子の朝ごはん作らなきゃ……。

メア いいえ、夢ではありませんよ。すべて、まごうことなき現実です。

美知子 やめてよ！ 夢よ！ 全部！ あの子が死ぬわけない！ あの子は私のたった一人の家族なのよ！

メア ええ、すべて存じております。貴女は早くにご両親を亡くし、天涯孤独に育ち、ようやく出会えた生涯の伴侶も、娘さんが生まれた数年後に他界。その後は女手一つで最愛の娘さんを貧しいながらに懸命に育ててきました。

美知子 なんて、私のことを。

メア 知っていますよ。私はそういうモノですから。

美知子 何者なの……？ 貴女。

メア さて、私は何者なのでしよう。妖怪、都市伝説。噂。他人であり、貴女の大切なだれかであり、貴方自身でもあります。

美知子 私自身……？

メア ええ、私は、貴方の望みを叶えることが出来ます。貴女の娘。安藤美咲さんを、もう一度この世に生まれ変わらせることが。

美知子 ……え？

メア その為には代償があります。条件もあります。

美知子 ……何よ。

メア いいですか？ 美咲さんをよみがえらせるには、美咲さんの体の一部。そして、貴方の、美咲さんの記憶を全て頂きます。

美知子 つまり、蘇らせたなら、私は、美咲のことを全て忘れるってこと？

メア 察しが良くて助かります。

美知子 他には？

メア 蘇った美咲さんに自分が母親だと伝えてはいけません。逆もしかり、美咲さんが貴方に蘇ったことを伝えてはいけません。万が一破れば……。

美知子 破ったら……？

メア その時点で、第二の人生は終了。速やかに美咲さんの命は終わりを迎えます。

美知子 そう……。

メア お互いかわらなければいいだけの事。そうすれば、彼女はまた、夢を追うことが出来る。

美知子 ……。

メア 私はすべて知っていますよ。美知子さん。

美知子 ……。考える時間を頂戴。

メア ええ、いいですよ。本来でしたら、この世に魂を置いておけるのは7日間までなのですが、今回は特別。別の力によって保護されていますので、数週間は大丈夫でしょう。ですが、遅くなればなるほど、魂の性質は変わってしまいます。悪霊などにならない為にも早めの決断を、お願いしますね。

メアは美知子に手をかざす。すると、気を失ったかのように美知子は眠り始める。

メア さて、どこの誰かは存じませんが、しばらく美咲さんをお願いしますね。契約が完了すれば、その魂は、私のものですから。

メアは店の奥へと姿を消すと、その空間は瞬く間に消えてしまった。
美知子が目を覚ますと、そこは自分の部屋。

美知子 夢？ でも……。

美知子は立ち上がり

美知子 美咲の、体の一部……。

美咲の部屋へと向かっていった。

シーン7 もう一人のズツ友

○墓地

落ち着きを取り戻した美咲。和弘と友也が様子を見ている。

友也 大丈夫か？

美咲 うん。ありがとうね。

友也 ああ。

美咲 よかった……。友也が来てくれて……。友也と話せなかったら、あたしどうかして
たと思う。

友也 俺も、また美咲に会えてよかった。
美咲 うん。でも、なんで友也には見えるんだろう。
友也 え？
美咲 だって、あたし幽霊だよ？ さつきもお姉さんに無視されたし。
和弘 お前、この小僧に自分の大切なものとかあげなかったか？
美咲 え？ 大切なもの？
和弘 自分の強い思いのこもったものとかそういうやつだ。
美咲 ー、あ、ミサング。
友也 ミサング？

友也は腕に巻いているミサングを見せる。

美咲 ずっとつけてくれてたんだ……。
友也 まあ、一応な。
美咲 ありがとう。
和弘 そういうの持つてる人間はその思いの強さによって見えることがあるらしい。
美咲 お前この男の事好きなのか？
友也 え！？ いや、友也はそういうんじゃないよ！
美咲 どうした？
友也 何でもないよ！
美咲 お、おう。
和弘 ま、ともかくそういうことだ。よかったな。一人じゃなくて。
美咲 うん。そのミサング持ってるあたしの事見えるんだって。
友也 そうか……。
和弘 おい、誰か来たぞ。
美咲 え？

時子が現れる。

時子 あの……。
友也 え、あつはい！
時子 あの、そこいいですか？
友也 そこ？
時子 そこ、お隣のお墓。そこうちのなんです。
友也 え、ああ、すみません。
時子 いえ。
美咲 さつき、あたしが声かけた人だ。

時子は墓の前でものを探している。気まずい友也と美咲

友也 えっと、忘れ物ですか？
時子 ええ、ちよっと……。確かこの辺りに……。
美咲 気まずいね。
友也 うるさい。
時子 あ、ありました。よかったー。
友也 よかったですね。大切な物なんですか？
時子 はい、亡くなった父の形見です。
友也 お父さんの……。
時子 もうずっと昔の話です。
友也 すみません。
時子 いいえ。それじゃ、私はこれで。

時子 軽く会釈をして去って行く時子。

和弘 あ？
美咲 どうしたの？
和弘 いや、なんか目が合った気がしたんだが、気のせいだな。
美咲 はあ。
友也 はあ……。
美咲 友也もどうしたの？
友也 幽霊が見えるやばい奴だと思われたかな。
美咲 なんて？
友也 だって、あの人からしたら、一人でぶつぶつしゃべってるやばい奴だったぞ。
美咲 事実じゃん。やばいかどうかはともかく。
友也 そうだよなあ。……。本当に死んじゃったんだな。
美咲 うん。ごめんね。
友也 なんてお前が謝るんだよ。
美咲 そうだけど、でも、ごめん。
友也 あほ。
美咲 あはは。
友也 さて、これからどうするかなあ。
美咲 どうするって？
友也 お前をどうするか。ここから離れても大丈夫なのか？
和弘 まだ地縛霊じゃないからな。大丈夫だぞ。
美咲 大丈夫だって。
友也 家、帰るか？
美咲 ……。帰らない。
友也 なんて？
美咲 お母さんが、怖いから。
友也 そうか。

美咲 友也ん家行く。

友也 は？

美咲 他に行くところもないし。

友也 いやいや、それは問題だろ。

美咲 大丈夫だよ。子供の頃よく行ったし、あたしお化けだし。

友也 いやいや、ダメだって。うちはマジで。

美咲 じゃあ、あたしここに一人ぼっち？

友也 それは……。ダメだ。

美咲 じゃあ、一緒にいないとじゃん。ね？

友也 ……分かったよ……。

美咲 やったあ！

和弘 俺はこの辺にいるから、なんかあったら来てもいいぞ。

美咲 おじさん。口悪いけど、優しいんだね。

和弘 はっ。自分のためだ。

美咲 そうなの？

和弘 お前には関係ねえよ。じゃあな。

和弘はどこかへ消えていく。

友也 はあ。

美咲 友也ん家久しぶりだなあ。楽しみ！

友也 家ついても、あまり物色とかするなよ。

美咲 大丈夫。ベッドの下とか探さないから。あたし理解あるから。

友也 お前。マジやめるよ。

美咲 あるのかい青少年。

友也 ない。絶対ない。だから探すなよ。ちよつと俺、先に帰るからちよつと後で来いよ。

美咲 急いで隠し場所変えなよー。

早速、駆け出す友也。そこへ墓参りに来た香苗と鉢会う。

友也 不破？

香苗 なんであんたがいるの？

友也 ……。美咲の墓参りに来ちゃダメか？

香苗 あんたが殺したんでしょ……。

友也 ……。ああ。じゃあな。

友也のそばから美咲が顔を出す。

美咲 あー！ 香苗だ！ やつと来てくれたのー！ もう待ちくたびれたよー！

友也 あ、おい。

目の前の光景に嘖然とする香苗

香苗 へ？

美咲 会いたかったよー！ 香苗ー！ 忘れられてるのかと思ったよー。ありがとうー！

大好き！

香苗 え？ え？ え？

友也 おい、美咲……？

美咲 って、こんなに話しかけても聞こえないか。あーあー、ちゃんとお別れ言いたかったな……。

香苗 あ、あ、ああ。

友也 おい美咲。

美咲 どうしたの？

友也 いや、不破の様子が……。

美咲 え？

香苗 美咲！

喜びのあまり抱きつこうとするが、すり抜けてしまう。

香苗 あれ？

美咲 え？

香苗 美咲……？ 美咲だね？ 生きてたの？

美咲 香苗、見えるの！？

香苗 見えるのって……。

美咲 香苗ー！ 大好きー！

美咲から抱きつこうとするがすり抜けてしまう。

美咲 あ。

香苗 え、どうなってるの？

美咲 えっとね、香苗。落ち着いて聞いてね。

香苗 う、うん。

美咲 あたし、死んでお化けになっちゃったみたいなの。

香苗 お化け……？

美咲 うん。でも、また香苗とお話しできるよ！

その場で崩れ落ちる香苗

美咲 香苗！？

香苗 もう、会えないんじゃないかと……思った……。今度こそ……。もう二度と……。
美咲 来てくれてありがとうね。
香苗 うん……。
友也 そういえば、不破にもミサंगा渡したって言ってたな。
美咲 うん、忘れてた。
香苗 ミサंगा。

腕に巻いているミサंगाを確認する。

友也 それを持つてると美咲のことが見えるらしいんだ。
香苗 ……。あんたも貰ってたんだ。

友也 ああ。
美咲 もうー、相変わらず二人仲悪いんだから！ 二人共大切な友達なんだから、仲良くして。

香苗 それは、考えとく

友也 え。

美咲 え、本当！

香苗 うん。だから安心してね。

美咲 うん。

そこへ和弘が顔を出してくる。

和弘 おい。クソガキ。

美咲 はい！

香苗 どうしたの？

友也 なんか、幽霊の知り合いらしい。

和弘 お前にこれだけは伝えないとイケなかったんだわ。忘れてた。

美咲 え。なに？

和弘 お前49日以内に成仏しろ。さもないと大変なことになるぞ。

美咲 え。大変なことって

和弘 お前は悪霊になるかもしれない。

美咲 え。

和弘 だからお前はこれから自分をこの世に縛っている未練を探して49日以内にそれを解消するんだ。そうすれば、お前は天国に行けるぞ。

美咲 天国って……。てかなんで49日？

和弘 仏教では死んでからの49日間を忌と言ってな。遺族が喪に服す期間なんだ。でも俺たち幽霊にとって49日はもつと別の意味を持っている。それは。

美咲 それは？

和弘 来世を決める期間だ。

美咲 来世？

和弘 49日間にさつさと成仏して、天国に行く。そして、その仏さんと話して来世を決める。このままこの世に残り続けられれば、お前の魂は摩耗し、いずれ悪霊になる。そして、悪霊になったら、強い霊能力者とかに消滅させられたり、いずれ自然に消滅したりする。

美咲 消滅したらどうなるの？

和弘 どうもならねえよ。消滅は消滅だ。お前という存在はこの世界から魂という単位で消え去るんだよ。

美咲 そんな。

和弘 それが嫌なら、さつさと成仏するんだな。

美咲 そんな、急に言われても、未練なんて。

香苗 美咲？

友也 どうしたんだ？

美咲 どうしよう。あたし悪霊になっちゃうかも……。

友也 は？

友也 え？

美咲 あたしの未練って何だろう。あたしがこの世でやり残したことってことだよな。

友也 ねえ、友也！ あたしの未練って……。

美咲 ロックスター。

友也 え？

香苗 お前の未練って言ったならこれしかないだろ。ニルヴァーナのカートみたいになるんじゃないかったのか？

美咲 そうだよ。それが美咲の夢だったんだから、それに間違いないよ。

香苗 そっか。うん、あたしは世界中の人にあたしの曲を聴いてほしい。でも、あたしのことがわかるの、友也と香苗だけだよ？

友也 そう、だね。どうすればいいんだろう。

美咲 俺がやる。

友也 え？

美咲 俺がお前の代わりに歌う。お前の歌を世界中の人間に聞かせて、お前を満足させてやるよ。

香苗 あんたが代わりに歌って、なんか意味あるの？

友也 分からない。でも、このままだとどうすることもできない。俺はあの時何もできなかったから、今度はお前のために、何でもやりたいんだ。

香苗 だからって……。

美咲 いいよ。それで行こう。

香苗 ……いいの？

美咲 うまく言えないんだけど、それがいいってなんか感覚でわかるんだ。

香苗 美咲がそれでいいんなら、いいんだけど……。

友也 ありがとう。俺のわがままに付き合ってくれ。

美咲 こっちこそ、あたしの為にありがとう。でも、これから厳しく指導するからね。

友也 え？

美咲 歌。今のままでいいと思ってるの？ がつつり鍛えて、みんなにお披露目だよ！
友也 お、おう。
美咲 友也！
友也 ん？
美咲 帰ろ！
友也 ああ。

和弘を残し、全員帰っていく。

和弘 後悔の無いようにな。クソガキども。

和弘もどこかへ帰っていく。

シーン8 見られたくないもの

○友也の家

帰ってきた友也と美咲

友也 いいか、変に部屋の中、物色するなよ？

美咲 分かってるってー。友也は心配性だなあ。

友也 あと、家に入ったら、すぐ俺の部屋にいけ。

美咲 え？ おばさんに会いたいんだけど。

友也 いいから。

美咲 えー、はい。

家の中に入る。

友也 ただいま。

美咲 おじゃまします。

部屋の中には将太一人。美咲は言いつけ通り友也の部屋に向かう。

将太 おう、帰ったか。

友也 母さんは？

将太 出た。

友也 またかよ。

将太 遅かったな。何してたんだ？

友也 何でもいいだろ。

将太 そういってな。

友也 美咲の墓参りだよ。

将太 ああ、そうか。そういえば、そうだったな。

友也 ……。なんだよ。
将太 お前、美咲ちゃんに惚れてただろ？
友也 ……。だったらなんだよ。美咲はもう死んだんだ。
将太 そうだな…。納得したのか？
友也 何言ってるんだ？ 納得とかもう関係ないだろ。
将太 まあ、聞け。たまには親らしい事させろ。
友也 どの口が言うんだ…。
将太 いいか、友也。惚れた女の為だったならな、何でもやってみろ。お前が納得するまでな。
友也 ……。
将太 ……。俺も、昔は母さんの為に全力だったさ。
友也 ……。もういいか。
将太 ああ。時間取って悪かったな。

立ち上がる将太。

友也 どっか行くのか？

将太 しよんべん。

そういつて、将太は去って行く。

友也 だから、連れてきたくなかったんだ…。

自分の部屋に行く友也。

シーン9 友達

○翌日、朝、大学。

大学に登校している時子。後ろから声をかけられる。

友達 時子ー！ おはようー！

時子 あ、うん。おはよう。

友達 いやー、昨日もクラブで盛り上がっちゃったよー。踊りまくってた！

時子 そうなんだ。

友達 でも、いい男はいなかったなあ。なんかみんなパツとしなかったから、仲間だけで遊んでたよ。あそこはそろそろ終わりかなあ。

時子 残念だったね。

友達 それでさ、また、ね？

時子 うん。ちゃんと用意してあるよ。昨日の分のノート。

時子はノートを一冊カバンから取り出す。

友達 ありがとうー！ 時子愛してる！ おかげで留年しなくても済むよー！
時子 全然。誰かのためになるならこれくらい。

友達 いやー、持つべきものは友だね！

時子 あはは。そうだね。

友達 あ、そろそろ講義始めるよ！ 行こ！ あの教授遅れるとめっちゃ課題出してくるんだ！

時子 うん。

二人は講義室へ向かう。

シーン10 知識と体感

○翌日、墓地。自分の墓の前で、ぼーっとしている和弘。

和弘 なにしてんのかなー。まあ、しょうがねえ。これが契約だもんな。

時子が墓にやってくる

和弘 やべ。

思わず隠れる和弘。

和弘 なんで俺隠れたんだ？

時子 ねえ。お父さん。

和弘 うお……。

時子 私、このまま卒業してもいいのかなあ……。学生の本分は勉強とは言うけど、本当にそうなのかな？ 私我慢してるかな。

その話を墓の裏で聞いていた和弘。

和弘 そんなもん。自分で好きに決めりゃいいんだよ

時子 え？

和弘 あ？

和弘と時子はお互いに声が聞こえるとは思わず驚く。

時子 あ、すみません。人がいたんですね。恥ずかしい。

和弘 あ、お、おう。いや、こっちこそ悪かった。

時子 もしかして聞いてました。

和弘 あ、ああ。そうだな。すまん盗み聞きみたいになった。

時子 いえ、お墓ですから、他にお参りに来てる人がいて当然です。私がちよつと無遠慮

和弘　　でした。
いいんじゃないか。別に幸いでたわけでもないし、この墓地はそんなに人は来ないしな。

時子　　ありがとうございます。お兄さんも墓参りですか？

和弘　　え？　あ、ああそうだな。あんたもなんだろう？　この墓、あんたの身内のか？

時子　　ええ、私のお父さんのです。私が小さなころに死んじゃって、あんまり覚えてないんですけど。

和弘　　そうか。それでも墓参りには来るんだな。

時子　　たった一人の父でしたから。それに、ここに来ると私は本当の私でいられるような気がして。

和弘　　どういう意味だ。

時子　　私、これでも結構優秀なんですよ。いっぱい頑張ったおかげで、大学の学費も免除できて返還不要の奨学金も貰えるようになったんです。

和弘　　へえ、すごいじゃないか。

時子　　えへ、でも、今はその奨学金を維持するため成績を上位に維持しなくてはいけなくて、そのためには勉強も、もつといっぱい頑張らないといけないんです。

和弘　　うん。

時子　　それで、最近ふと思っちゃったんですよ。私、なんかずっと我慢してるなって。

和弘　　……。

時子　　友達とカラオケとか、サークルとか、アルバイトとか、インスタ映えとか、そういうの全然やったことなくて。一度っきりの学生生活それでいいのかなって。

和弘　　なるほどな。

時子　　でも、奨学金のおかげでお母さんの負担がほとんどないまま、大学まで行けたんです。お父さんが亡くなって、女手一つで私をここまで私を育ててくれたお母さんには将来もつと楽をしてほしい。いっぱい勉強して、いい会社に就職したい。

和弘　　だから、そのためには仕方ないんだって。

和弘　　……。

時子　　そんな愚痴を、こうやって誰もいないお墓で、お父さんに聞いてもらってるんです。

和弘　　お父さんからしたらはた迷惑な話かもしれないけど。

和弘　　そんなことないんじゃないか？

時子　　え？

和弘　　親つてのは、子供の幸せを一番に願ってる生き物だ。どんなにつらくても、どんなにどん底にいても、子供の為に命だっけかけられる。そういうもんだ。

時子　　命ですか？

和弘　　って、最近子供が出来たダチが言ってたんだよ。

時子　　そうなんですわね。

和弘　　だから、あんま無責任なことは言えんが、たまには自分のわがまま言ったっていいと思うぞ。むしろ、それを願ってるかもな。

時子　　そう、ですか？

和弘　　ああ、女手一つでここまで立派に娘を育てお母さんなんだ。きっとパワフルだ。き

つと、あんたのわがままの一つや二つくらい叶えてくれるさ。
なんだかお兄さん見た目よりずっと大人ですね。

和弘 あ、えっと、そんな気がするだけだ。なんかそんなな。

時子 ありがとうございます。なんだか、ちよつと吹っ切れてきました。初対面なのにいろいろありがとうございます。なんだか、他人とは思えないですね。

和弘 いや、他人だよ。結局適当に口出すことしかできないんだから。

時子 お兄さん？

和弘 いやなんでもない。そういえば、あんた、やりたいことってなんだ？ なんかあるから、そんな愚痴が出んだろ？

時子 えー、聞きますか？ 笑わないで下さいよ？

和弘 笑わねえよ。

時子 えっとですね。私、カメラがやりたいんですよ。写真とか、あ、動画とかもとつてみたいです。それを世界中の人たちに見てもらって、この世界にはこんな素敵ば場所や人がいるんだって伝えたいんです。インスタ映えですね。

和弘 カメラか……。最初に結構金がかかりそうだな……。

時子 そうでもないですよ。今はこのスマホで結構いけるんで。あとは私の気持ちだけなんです。

和弘 そうか。あ。

時子 え？

和弘 もしかしたら、あんたのやりたいことを叶えつつ、人助けになることが出来るかもしれないって言ったらやるか？

時子 え、や、やりたいです！

和弘 そしたら、明日同じ時間にここに来れるか？ そこに高校生のガキどもがいる。そいつらの話を聞いてやってほしい。きっとあんたの力が必要になるはずだ。

時子 え。お兄さんはいないんですか？

和弘 俺はちよつと用事があってな。悪いと一緒にはいれない。だが、そいつらはバカだが、一人の為にがんばってる奴らなんだ。よかったら助けてほしい。

時子 ……。いいですよ。それが私のやりたいことに繋がってるんですよ。お安い御用です。

和弘 ありがとうございます。ほら、もう夜になる。女はさっさと家に帰れ。

時子 えー、なんでそんなこと言うんですかー。

和弘 いいからほらさっさと帰れ。

時子 分かりましたよ。お話を聞いてくれてありがとうございます。また会えますよね？

和弘 ああ、多分な。

時子 ならいいです。また会いましょうね。お兄さん。

和弘 ああ、またな。

時子は嬉しそうに家に帰っていく。それを見送る和弘。

和弘 なんだか変な感じだな。知ってるのに覚えてない。ああー、しゃべりすぎた。失敗

したなー。

そう言つて、その場を後にする。

○学校 廊下で出会う香苗と友也

香苗 川村。

友也 なんだよ。

香苗 あたしは、あんたと仲良くする気はないからね。

友也 それをわざわざ言いに来たのか？

香苗 昨日は美咲の手前、ああ言つたけど、あたしは許したわけじゃないから。

友也 そうか。

香苗 美咲は？

友也 うちにいるよ。

香苗 そう。大体なんであんたの家なの。あたしの家でいいじゃない……。

友也 うちは勝手知つたる何たらつて感じだからな。落ち着くんたる。あいつの家も近いし。

香苗 気に入らない。けど、美咲の為に我慢してあげる。今はあの子のことが一番だから。

友也 なあ、なんでお前、美咲の事そんなに好きなんだ？

香苗 あんたに関係ないでしょ？

友也 まあ、そうだな。

香苗 歌、しつかりしなさいよ。あんたにすべてかかっているとんでも過言じゃないんだから。

友也 分かつてる。

香苗 ならいいけど。

友也 お前は歌わないのか？

香苗 え？ あ、あたしは、その……。

友也 ん？

香苗 あたしは歌は苦手なの！ あたしじゃ、とても49日までにどうにかすることできないの！

友也 そ、そうか。なんか悪かった。

香苗 そういう事だから、あたしは今回はサポートに回るわ。あの子を不幸にしたら承知しないんだからね。

麗奈が遠くから香苗に声をかける

麗奈 香苗ー！ なにしてんのー？

香苗 麗奈？ どうしたの？

麗奈 どうしたのって？ 今日は一緒にクレープを食べに行く約束してたでしょ？

香苗 え、そうだったっけ？ でも、私……。

麗奈 えー、もしかして、川村君となにかあるの？
香苗 あるわけないでしょ！ こんな奴と！
友也 こんな奴って……。
麗奈 ならいいよね？

香苗をじつと見つめる麗奈

香苗 分かった……。

麗奈 うん！

友也 じゃあ、俺もう行くから。

香苗 あ、うん。

麗奈 川村君。

友也 ん？

麗奈 じゃあね。

友也 お、おう。

友也は帰っていく。

麗奈 ねえ、川村君と仲直りしたの？

香苗 そもそも仲良くない

麗奈 そうなの？

香苗 そうよ。美咲の事がなかったら、あんな奴。

麗奈 美咲ちゃん？

香苗 あ、いや、ちよつと、親の方でいろいろあってね。ほら。美咲とは幼馴染だったから。

麗奈 そうだったね

香苗 ほら、クレープ食へに行くんでしょ？ 日が暮れちゃうから早く行こ。

麗奈 うん。

二人帰っていく。

○墓地。

友也、美咲、香苗の三人が集まっている。

友也 なあ、本当にここでやるのか？

香苗 しょうがないでしょ。学校の空き教室はとれなかったし、あんたの家だと狭いし。

友也 大きなお世話だ。

美咲 でも、近辺はほとんど人通りがないから、結構大きな声出しても平気だよたぶん。

友也 本当か？

美咲 多分。

友也 念押ししてきたな。
美咲 まあまあ、それじゃ始めよう。まず最初に友也の歌唱力を見せてもらっていい？
友也 昨日好きな曲を選んでくれてたよね。
美咲 大丈夫だから、心配しないでって。
香苗 今更ビビってるの？
友也 そんなわけないだろ！
香苗 なら、さつさと歌いなさい。どうせこれからもっと大勢の人の前で歌うことになるんだから。
友也 わかってるよ……。
美咲 ほら、がんばって。
友也 くそ、こうならやけだ！（好きな曲を歌いだす。）どうだ？
美咲 おお、思ってたより。だね。うん、普通だ普通。
友也 普通ってなんだよ！
香苗 まあ、普通にうまいっていうか。うん。普通ね。
友也 なんか傷つくんだけど。
美咲 まあまあ、くそ下手音痴野郎じゃなくてよかったじゃん自信もって。
友也 何その悪口。普通に怖いんだけど。
美咲 まあまあ。
友也 それで、俺はこれから何をすればいい？
美咲 そうだね。音程とかはまあまあ取れてるから、やっぱり、基礎の体づくりと、発声。
友也 あと人前で歌うことになることだね。
友也 声ねえ……。
美咲 今、なんとなく出してる声を、こう、鼻とか、頭とか、低い音だと胸のあたりだとか体の空洞になってる部分に空気を震わせると、のどに負担をかけずに周りに響く大きな声を出すことが出来るの。
友也 響かせる……。あー。（胸に響かせる）こんな感じ？
美咲 おうー、そうそう。いい線言ってるよ！それが上にどンドン意識を挙がってくイメージ！
友也 あー。どう？
美咲 うーん、高音の方が苦手みたいだね。私の作った曲そこそこ音程高いから、そのあたりのトレーニングしていこうか。
美咲 分かった。何すればいい？
友也 ひたすら足上げ腹筋だよ！
美咲 筋トレかよ！
美咲 そうだよ！歌に筋肉は必要なんだよ！さ！がんばろ！
友也 うえー！

その場で寝転んで、足上げ腹筋を始める友也。その姿を眺めている香苗。そこへ時子がやってくる。

時子 あ、このあいだの
香苗 え？
友也 あ、このあいだの
時子 お久しぶりです。
香苗 知り合い？
友也 そのお墓にお参りに来る人。
香苗 へー。
友也 今日もお参りですか？
時子 いえ、今日はあなたに会いに来ました。
友也 え？ 俺？
時子 はい。
香苗 え？ ちょっとあなたこの人に何したの！？
美咲 あんた、知らない間に大人の階段上ったの！？
友也 いやいやいや、ちょっと待って！ 身に覚えがないから！ 落ち着け！
時子 あ、彼女さんでしたか？
香苗 え？ あたしが？ いやいやいやいや、そんなわけ！
友也 そうですよ！ だれがこんな性悪女と！
香苗 は？ 性悪ってあたしの事？ 喧嘩売ってんの？
美咲 友也、香苗の事悪く言うの許さないよ。
友也 あ、いや、これは、ちょっと、言葉のあやというか……。
香苗 あー、はいはい、川村君はあたしのことをそういう風に見ていたと。あーはいそう
美咲 ですか、分かりました。やっぱりあんたとは仲良くなれそうもないわ。
美咲 ごめんね。あたしが幼馴染として、ちゃんとしつけとくからさ。
香苗 ううん。美咲は気にしくていいの。この男がすべて悪いんだから。
友也 ふう。
香苗 ほら、あんたはそこでずっと足上げてなさいよ。
友也 分かった、分かったよ。はあ。
時子 お二人とも仲がいいんですね。
友也 本当に、そう、見えますか？
香苗 あー、それで、こいつに用があつてきたんですね？
時子 あ、そうなんです。昨日ここで知り合った方に、同じ時間にここに来るように言われたんです。そこにいる人たちは、たった一人の為に、一生懸命頑張ってる人たちだから、手助けしてくれって。
香苗 誰ですかそれ。私たちの活動知ってる人なんて他にいたっけ？
友也 いや……。あ。
美咲 あ。もしかして。
友也 (時子に隠れて)もしかして、お前が言ってた幽霊の先輩じゃないか？
美咲 しか考えられないよね。この人あの人的人身内なのかな。
友也 あの、その人って、なんか、お知り合いとか何ですか？

時子　いいえ、昨日初めて会いました。でも、
友也　でも？
時子　なんだか、初めて会う気がしなかったんですね。おかげでなんかいろいろお話しちゃいました。
美咲　自分の事言わなかったのかな？
友也　なんか事情がありそうだな。
香苗　え？ 何、どういう事？
友也　その人が僕たちに手助けしろって言ったんですよ。
時子　はい。私のやりたいことが皆さんの助けになるからって。
友也　やりたいことって？
時子　私、カメラがやりたいんです。写真や動画を取りたいんですよ。
友也　カメラですか。
時子　だから、私のカメラが皆さんのお手伝いになればいいんですが。
美咲　カメラかあ。何ができるんだろ。
友也　えっと、俺たち、今ある曲を世間に発表したくて、歌の練習とかしてるんです。発表ですか……。
時子　はい、そういう風についていうのはまだ決めてないんですけど。
友也　あの。それならば、時子さんにあなたが歌ってる動画とか撮ってもらって、それネットに流してみればいいんじゃない？
友也　おお！
美咲　MVだ！
時子　ああ！ いいですね！ そういうの撮ってみたいです！ そんな大層なものは作れません。
香苗　動画編集とかって大丈夫そうですか？
時子　はい、大学のパソコンを貸してもらえるとと思うので、それを使えば大丈夫だと思います。編集ソフトも授業で使ったことがあります。
友也　いいですか？ お金とか俺たち出せませんよ。
時子　いいんですよ。これは私の人生で最初のわがままなんです。自分の為にやる事なんです、皆さんは気にしないでください。
美咲　やってもらおうよ。この人にとってはこれが、最初の夢なんだよ。
友也　ああ、じゃ、おねがいします。
時子　こちらこそ、よろしくお願いします。あの、お名前は？
友也　俺は川村友也。
香苗　不破香苗です。
美咲　美咲です！
時子　友也さん、香苗さん。よろしくお願いします。私は、田邊時子っていいいます。
友也　よろしくお願いします。時子さん。
時子　それである音楽ってどんなのなんですか？
友也　えーと……。あれ？
香苗　そういえば……。

友也は美咲の方を見る

美咲 あー。あたしんちなんだよね。あたしの部屋のパソコンに入ってるはず。

友也 お前、それが一番先だろ。

美咲 ごめん。

友也 すいません。今手元にはないんです。またここに来てもらえますか？ 用意しておくので。

時子 もちろんいいですよ。それじゃ、用意出来たら、連絡貰っていいですか？ 私のラインを教えますので。

友也 ありがとうございます。

時子 香苗さんも

香苗 あ、はい。

三人はラインのIDを交換する。

時子 それじゃ、私はすぐにでも撮影ができるように準備しておきますね。まあスマホでとるんですけど。

友也 はい、大丈夫です。よろしくお願いします。

時子は家に帰っていく。

香苗 川村ってああいう人がタイプなの？

友也 なにが？

香苗 なんでもない。

友也 それより、どうするんだ。お前の家行かないといけないぞ。

美咲 あー、うん。私、やっぱり行かないとダメかな？

香苗 帰りたくないの？

美咲 お母さんに、まだ会いたくないんだ。

香苗 そう……。

友也 分かった。お前は俺の家に行けばいいよ。

美咲 いいの？

友也 今は、お前のやりたいことが優先だ。嫌なことは無理にしなくてもいいと思う。時間もないしな。

香苗 そうね。音源がないと川村がずっとここで足上げ腹筋と発声だけすることになるだろうし。

友也 基礎練習も大事だけど俺達には時間がない。今日はこれで切り上げて、さっそく美咲の家に行こう。

美咲 分かった。

三人は墓地を後にして、美咲の家に向かう。

○美咲の家。美知子が部屋の中にうずくまっている。家のチャイムが鳴る。扉を開けると、友也と香苗がいる。

美知子 あら、友也君とそちらはたしか香苗ちゃんだったかしら。どうしたの。

友也 お久しぶりです。その、美咲に生前貸していた物があつたので、それを取りに。美咲の部屋に入ってもいいですか？

美知子 あら、そうなの。あの子ったら……。ごめんなさい。どうぞ上がって。部屋はずつとそのままだしているから、好きに探してもらって構わないわ。二人なら、あの子も怒らないと思うから。

友也 ありがとうございます。

香苗 ありがとうございます。

二人は美咲の部屋に移動しようとするが、香苗だけ美知子に呼び止められる。

美知子 香苗ちゃん

香苗 はい。

美知子 ずいぶん久しぶりよね。引越す前は時々遊びに来てくれたけど、戻ってきてからは美咲ちつとも連れてきてくれないから。

香苗 いえ、私も塾とかで忙しかったので。

美知子 そうなの。でも美咲から話は聞いてたからすぐわかったわ。大きくなったわね。

香苗 もう、10年近くも前の事ですから、私もう17ですよ。

美知子 そうね。あの子も17だった。17になったばかりだったのに。

香苗 美知子さん……。

美知子 あ、ごめんなさい。つい懐かしくなつて。

香苗 いえ、私も美知子さんとお話しできてよかったです。

美知子 ありがとう。

香苗 それじゃ。

美知子 ええ。

香苗は美知子に別れを告げ、美咲の部屋に移動する。

美知子 本当に大きくなつて。

その瞬間気を失う。目を覚ますと目の前にはメア

メア こんにちは、美知子さん。

美知子 メア。

メア お気持ちは決まりましたか？

美知子 まだ、もう少し待って。

メア 構いませんが。あんまり悠長に構えてはいけませんよ。何事にも限界はありますか。

美知子 分かっているわ。全部わかってるわ。でも……。

メア 恐ろしいですか？ 美咲さんの記憶が無くなるのが。

美知子 ……。

メア 無理に急かすのはやめましょうか。先ほども伝えた通り、今回は時間があります。よかったですね。

美知子 貴方は、なぜそんなことをしているの？

メア そんなこと言われなくても。これが私の仕事ですし、存在する理由ですから。

美知子 仕事ね……。ずいぶん趣味が悪いとそうは思わない？

メア そうでしょうか？ 私は、あなた方人間が生み出した存在です。これはすべて人間が望んだことなんですよ。

美知子 それは……。

メア つらいことを思い出させてしまいましたか？ それは申し訳ございません。

美知子 もういいでしょ。今はまだ契約しない。早く家に帰して。

メア その前に、契約が決まった際、手続きを円滑に済ませるために、そちらお預かりしますよ。

美知子 ……分かったわ。

美知子は瓶に入った美咲の髪をメアに預ける。

メア はい、確かに。それじゃ、御用の際は私の名前をお呼びください。迅速に処理させていただきます。

美知子 ええ。

メア それでは、またいずれ。

美知子に手をかざすメア。美知子はだんだん意識が遠くなる。

メア 私がなぜ、こんなことを一生懸命やっているか。それはですね。興味があるからです。よ。あなた方人間が、どのような選択をし、どのような結末を迎えるのか。そのドラマに。

美知子 ドラマ……。なんて……勝手な……。

美知子は意識をうしなう。

メア 素敵なエンディングに進めるといいですね。美知子さん。

メアは瓶を持って、その場を後にする。

目を覚ます美知子

美知子 はあ、ひどい白昼夢……。

○美咲の部屋

美咲のノートパソコンをいじっている友也。後から来る香苗

友也 遅かったな。おばさんと話してたのか？

香苗 うん。音源あった？

友也 多分、このパソコンにあるはず。さっさとコピーして練習しないとな。

香苗 そうね。

友也 ……おばさんと知り合いだったんだな。

香苗 昔ね。あたしもともこの町の出身だから。

友也 全然知らなかった。

香苗 でしょうね。川村にはあったことなかったから。

友也 でも、美咲とは会ってたんだろ？

香苗 そうね。子供のころよくこの家に遊びに来てた。

友也 仲よかったんだな。

香苗 何？嫉妬？

友也 なんてだよ。

香苗 あはは、まあ、でも、そうね。あの頃は、美咲だけが友達だった。

友也 ふーん

香苗 あ。

友也 どうした？

香苗 これ。

香苗は部屋に飾られている、一冊の本を見つけた。

友也 本？

香苗 これ、子供のころ美咲とやってた交換日記。

友也 え。

香苗 まだ、持ってきてくれたんだ……。

友也 古いな。

香苗 もう10ぐらい前だからね。

友也 10年……。

日記を開き読み始める香苗。

美咲(本) はじめまして。合ってるかな？ 安藤美咲5歳です。今日から、大好きな香苗ちゃ

んと交換日記をすることになりました。一緒に遊んでないときの香苗ちゃんがわかるなんて、日記ってすごい！ 早くまた香苗ちゃんと遊びたいです。

香苗 初めてじゃないのに、初めましてってなんか変だね。はい、私もやりませう。不波香苗です。5歳です。交換日記ってどんなこと書けばいいかわからないけど、きつと楽しくなるってなんだかわからないけど、わくわくします。

美咲(本) 分からないが、二つもあるよ。いろんなこと知ってる香苗ちゃんが分からないなんて、面白いね。美咲は今日は保育園に行きました。保育園には、とも君っていう男の子がいるんだけど……。

友也 俺の事書いてんのかよ。

香苗 よく、あんたの事話してたよ。

日記のページをめくる香苗

美咲(本) この間、とも君と喧嘩したの。なんか急に女とは一緒に遊べないって言うてきて、怒っちゃった。なんであんなひどいこと言うんだらう。男とか女とか、よくわかんない。

香苗 きつと、とも君は恥ずかしかったんだよ。男の子にはよくある事だよ。ちゃんとお話しすれば、きつと仲直りできると思うよ。元気出して！ 私も。美咲ちゃんと同じ保育園に通いたかったな。

友也の事を見る香苗

友也 なんだよ。

香苗 なんでも。

日記のページを捲る香苗

香苗 あ

友也 どうした？

香苗 黙って。

友也 あ、お、おう。

日記を読み進める。

美咲(本) この前、お父さんが大好きなお歌を教えてもらったの！ にるばーな？ って奴で、何言ってるのか全然わからなかったけど、なんかかつこよかった！ お父さんにそれお話したら、喜んで、あたしもうれしくなっちゃった！ 今度香苗ちゃんにも教えてあげるね！

美咲(本) 香苗ちゃんと会えなくて寂しい。最近公園遊びに来てくれなくなっちゃった。もうずつとだよ？ 交換日記じゃなくて、あたしの日記みたいになってきちゃったよ。でも、香苗ちゃんに教えたいこといっぱいあるから、日記いっぱい書くね。交換したら、ちゃんと全部お返事くれますように。

ページを進めていく香苗

香苗 そんな、嘘。

友也 どうしたんだよ。

香苗 美咲、ごめん……。

友也 ……。

PCから転送完了の音が流れる。

友也 お、終わったぞ。

香苗 帰りましょ。

友也 ああ。

PCをそのまま閉じて、帰り支度をする二人。交換日記を持って帰ろうとする香苗

友也 それ、持っていくのか？

香苗 ええ、美咲に返事書かないといけないから。

友也 返事？

そこへ美知子が部屋に入ってくる。

美知子 探し物は見つかった？

友也 あ、はい。そろそろ帰ろうと思っていたところです。

美知子 そう。よかった。香苗ちゃんは？

香苗 はい、見つかりました。とっても大切なモノが。

美知子 そう。

友也 それじゃ、俺たち帰ります。ありがとうございました。

香苗 ありがとうございます。

美知子 ええ、またいつでも遊びに来てね。その方があの子も喜ぶと思うから。

友也 はい。

友也と香苗は部屋を後にする。

美知子は、なんとなく部屋に置いてあったPCが気になって開いた。スリープモードになっていたパソコンは開くと先ほどの友也が操作していた画面が立ち上がった。

美知子 これって。

美知子は美咲が残した音楽を見つける。それを再生する。イントロから、歌いだしまで流れる。

美知子 ……。これ、あの子の……。

何かを決意する美知子。

美知子 メア

予想していたのか、すぐさま部屋に現れるメア

メア お呼びですか？ 美知子さん。

美知子 契約するわ。

メア かしこまりました。では、こちらへどうぞ。

美知子を連れてメアは部屋を出ていく。

○友也の家

友也の部屋で一人過ごしている美咲

美咲 友也まだかな。

そこにメアが現れる。

メア こんにちは。美咲さん。

美咲 誰？

メア 失礼いたしました。私こういうモノで……。

名刺を渡そうと近づくと、その手は不思議にな力によって弾かれる。

美咲 え、なに！？

メア ああ、なるほど。貴女は、守られているのですね。

美咲 守れてるって、誰に？

メア いずれ知ることになります。その時が来れば。

美咲 その時って……。

メア ふふ。今日はあなたにお知らせがあつて来たんです。

美咲 お知らせ？

メア ええ、先ほど、契約が完了しました。しかし、今のあなたには私は近づけないようです。なので、またいづれ、あなたの元に参りますね。本日はこれにて、失礼します。

美咲 待って！ 契約って何なの！

メア ああーそう。一つ忠告です。貴女が持っているその本。そちらを手放さないようし

美咲 た方が、よろしいですよ。
本って、この事？

美咲は幽霊となった時からずっと持っていた本を取り出す。

メア ええ、あなたの望みを今世で叶えたければ、ですがね。

美咲 ちょっと、待ってよ！ わけわかんないことばっか言って消えるなー！

メアは消えていく。

メア また会いましょう。美咲さん。

美咲 なんなの？

友也が部屋に帰ってくる。

友也 ただいまー。美咲ー、一人で大丈夫だったかー？

美咲 あ、う、うん。大丈夫だよ。

友也 ん？ なんかあったのか？

美咲 全然！ 何でもないよ！

友也 ……。OK、分かったよ。

美咲 ありがとう。

友也 ああ。

美咲 それで、音源どうだった？ あった？

友也 ああ、ちゃんとコピーしてきたぞ。

美咲 よかったー。これで本格的に練習できるね！

友也 ああ、がんばるよ。なあ。

美咲 なに？

友也 おばさん、会いに行かなくていいのか？

美咲 ……。

友也 結構やつれてたぞ。

美咲 うん。ごめんね。でも……。

友也 ん？

美咲 あたし、お母さんに、ミサंगाあげてない。

友也 ……。そうか。

美咲 うん。ありがとうね。

友也 ……。

美咲 さ！ 動画の撮影は明後日だよ！ 時間ないんだから、たくさん聞いて！ 覚え

て！

友也 ああ。

○高校

2日後空き教室を借り、動画の撮影準備をしている、美咲、友也、香苗、時子

友也 やべ、さすがに緊張してきた。

美咲 大丈夫！ 先生を信じて！

時子 あの、本当に私ここにいていいのでしょうか？

香苗 ちゃんと許可撮ってるから大丈夫ですよ。

友也 久しぶりの高校どうですか？

時子 そうですね。当時は勉強しかしてなくて、あんまり高校生やってなかったんですけど。やっぱ、いいですね。

美咲 高校といえばアオハル。アオハルといえば、高校生！ 時子さんの失われた青春を今

ここで取り戻すのだ！ 時子さんに制服着せよ！

友也 いや、目的違うだろ。

時子 え、あ、すみません……。

友也 ああ！ 今のは時子さんに言ったんじゃないよ！

香苗 おーっとー！ 手が滑ったー！

友也にチョップをかます香苗

友也 いてえ！ 何すんだよ！

香苗 あんた、もうちょっと慎重になれないの？

友也 はあ？

香苗 美咲の事。言っても信じてもらえないでしょ？ それで変な勘違いされて、協力してもらえなかったら、全部水の泡なんだからね。

友也 それは……。かもしれないけど……。

香苗 美咲の為を思うなら、気おつけなさい。

友也 ……。

美咲 どうしたの？

時子 どうしたんですか？

香苗 ああ、いえ！ 何でもないんですー！ ほら、川村、いつまでぼーっとしてるの？

友也 ああ。

美咲 どうかした？

友也 いや……。

時子 私の方はいつでも大丈夫ですよ。

美咲 友也ー！ がんばれー！ やばい、なんかあげみざわー！

香苗 いくよー！

香苗がスピーカーカーを操作し、音楽を流し始める。時子は撮影を始める。
イントロ

歌いだしの準備をする友也。

友也 ごめん。やっぱり、待ってくれ。

美咲 どうしたー！ やっぱりおじけづいたのかー！ 軟弱物ー！ でも、緊張するよね。かりみが深いよ。

友也 うるさい。

美咲 はにゃー！

時子 川村君？

香苗 ちよつと、どうしたの？

友也 やっぱり、美咲の事を思うんなら、ちよつと違うんじゃないかって思ったんだ。

香苗 何が？

友也 時子さん

時子 はい。

友也 実は、俺、幽霊が見えるんです。

時子 え？

香苗 は？

美咲 うえ？

香苗 ちよつとストップ！ 何言ってるのあんた！ ごめんなさい時子さん。

時子 あ、いえ、私は……。

友也 俺たちが誰かの為にこの活動をしているって話をしましたよね？ あれは、その幽霊なんです。幽霊の名前は美咲。俺と、不破の幼馴染です。数日前に事故で亡くなつて、それから、幽霊になつて、ずっと俺たちのそばにいるんです。俺たちは美咲が無事に成仏するために、この活動を始めたんです。

美咲 ちよ、ちよつちよつと、友也？ あたおかじゃん。どうしちゃったの？

友也 お前はただ成仏すればそれでいいのか？

美咲 え？

友也 不破も、何事もなく成仏させればそれでいいのか？

香苗 だって、そうしないと美咲は悪霊になっちゃうじゃない！

友也 だからって、このまま死んだ人間として、まるで腫物みたいに扱って、それで歌うたつたつて、そんなんで、本当に未練が無くなるのかよ。美咲は夢と一緒に、たった一度の青春も奪われたんだ。俺たちは見ることが出来るんだ。もう40日程度しかないこの時間をもつと、高校生やっつて、青春してやるのが、美咲の為なんじゃないのか？

香苗 そんなの……。あんたに言われなくてもわかってるよ！ それが出来たら、どんなにいいか。全部わかっている。でも、それで49日が過ぎて、取り返しがつかないことになつたらどうすればいいっていうの！？

友也 それは……。

香苗 何も考えずに、きれいごとばかり……。理想論は結局理想でしかないの。その理想から、妥協を重ねて、現実的で最良の答えを出す。それが出来なかったから、美咲が死ぬことに……。なっ……。た……。

美咲 ……。そうだね。あたしは自分の人生に妥協できなかった。お母さんと喧嘩しても、

やっぱり、歌手になりたかったんだ。
香苗 あ、いや、違うの。そうじゃなくて……。

美咲 でもね、あんまり後悔してないんだ。自分の人生曲げずに、言いたいこと言った。自分分は死んじゃったけど、子供を助けることが出来た。あたしの人生、最高にロックじゃない？

香苗 ……。ごめん。

美咲 香苗！

謝って、教室を飛び出す、香苗。残った3人。

友也 すみません。こんなことになっちゃって……。

時子 私は大丈夫ですよ。

美咲 友也のせいでしょ。反省して。

友也 俺はお前の為を思ってたな！

美咲 ありがとう。

友也 ……おう。

時子 二人にとって、とても大切な人なんですね。

友也 え。

時子 今も、そこにいらっしやるんですか？

友也 はい。

美咲がいるであろう空間を見つめる時子。そこにいる美咲。

時子 初めまして、美咲さん。田邊時子です。挨拶はちゃんとしないといけないですよね？

美咲 は、初めまして！ 安藤美咲です！

友也 挨拶をかえしてます。

時子 そうですか。よかった。

美咲 ねね。友也

友也 ん？

美咲 敬語やめてもらおうよ！ その方がもっと仲良くなれると思うしさ！

友也 そうだな。

時子 ？

友也 美咲が、敬語をやめてほしいそうです。時子さんの方が年上だし。

時子 ……。うん、いいよ。友也くん。美咲ちゃん。

美咲 やったー！ 時子さーん！ 大好きー！

時子に抱きつこうとするが、すりぬけてしまう。

時子 ひゃあ！

美咲 あ、忘れてた。

時子 えっと、今、美咲ちゃん何かした？

友也 あー、喜びすぎて、時子さんに抱きつこうとしたんですけど、すり抜けました。

時子 なるほど……。

友也 どうかしたんですか？

時子 今、全身にすごい寒気がして。幽霊に触られるってこういう事なんだね。

美咲 おー！

友也 あ、おい。

喜んで、時子に何度もすり抜ける美咲。

時子 ひゃあああ！

友也 やめろ！

美咲を捕まえる友也

友也 なにやってんだよ。

美咲 いやー、あたしの事わかるのがうれしくて。ワンちゃんあるかなって。

友也 無い。

時子 だ、大丈夫……。あはは……。

美咲 か、かわたん……。友也。

友也 なんだよ。

美咲 ひどい目に合ってるお姉さんって、よくない？

友也 いい加減にしろ！

美咲 あはは。

時子 それより、これからどうしよっか？ 動画撮る？

友也 ……。動画はとりましょう。今日はそれが目的でしたし。

時子 そうだよな。

美咲 香苗……。

○校内廊下

空き教室から走ってきた香苗。

香苗 はあ、はあ……。

麗奈が現れる。

麗奈 なにしてるの？

香苗 麗奈？

麗奈 どうかしたの？ 大丈夫？

香苗 麗奈こそ。今日学校休みだよ？

麗奈 私は、忘れ物取りに来たんだ。課題があったのにどんくさいよね。

香苗 そんなことは……。

麗奈 それで、香苗ちゃんはどうしたの？

香苗 私は……。

麗奈 大丈夫だから……。話して？ 私は、何があっても、香苗ちゃんの味方だよ？。

香苗 私……。美咲に……。美咲にひどいこと言っちゃった……。

麗奈 美咲？ 安藤さん？

香苗 否定しちゃった……。分かったのに……。美咲はそういう子だって……。分かったのに。

麗奈 ……。そうなんだね。

香苗 私、本当に最低……。

麗奈 そんなことないよ。

香苗 ……。

麗奈 香苗ちゃんは最低なんかじゃないよ。いつだって一番正しくて、全部完璧なんだ。だから、間違ってるのはあっちなんだよ。

香苗 川村が間違ってる？

麗奈 そうだよ。香苗は悪くない。

香苗 私は悪くない。そうだ、川村が間違ってるんだ。失敗したら、意味がないんだから……。

麗奈 そう、それがいつもの香苗ちゃんだ。私が大好きな香苗ちゃん。

香苗 ありがとう。おかげで元気出た。

麗奈 ううん。役に立ってよかった。何か手伝うことがあったら言ってね。

香苗 ありがとう。私、先帰ってるね！

麗奈 うん。

香苗は足早に帰っていく。残る麗奈。

麗奈 死人のくせに、まだうろちよろと……。香苗ちゃんは誰にも渡さない。安藤さんにも、川村君にも。

麗奈も帰っていく。

○墓地

翌日。美咲、友也、時子の3人でスマホから投稿した動画を見ている。

美咲 おー！ ついにあたしもユーチューバーだー！

友也 俺の歌が世界中に……。やばなんだこれ……。

時子 まだ昨日の夜にアップロードが完了したばかりだから、まだ、そんなに再生されてないけど。

美咲 私の音楽を世界中に届けることが出来た！

友也 すごい！ 少ないって言うてももう30再生されてるぞ！ 初めてでこれは結構多

くないか？
美咲 本当だ！ うわー！ まじやばたにえん！ うれしくて死にそう……。
友也 もう死んでるだろ……。
美咲 お化けジョーク。みたいな？
友也 やめとけ。
美咲 はーい
時子 喜んでるみたいだね。
友也 はい！
時子 友也君も嬉しそうでよかった。
友也 え？
美咲 わかるー！ そんなにテンアゲなの久しぶりじゃない？
友也 あ。
時子 出会った時からそうだったけど、友也君ずっと難しい顔してたから。きっと、ずっと美咲ちゃんの事を真剣に考えてたからなんだよね。
友也 俺、ずっとそんなんでした？
時子 うん。
美咲 すごかったよー。ずっとウンチ踏ん張ってるみたいな顔していた。
友也 たとえがひどい。
美咲 でも、分かってたよ。あたしの事一番に考えててくれてるんだって。おかげでこんなうれしい気持ちになれた。ありがとう！
友也 お、おう。
時子 なんかいい雰囲気な感じがするねえ。お姉さんお邪魔かな？
友也 いやいや、全然大丈夫ですから！ いてください！ お願いします！
美咲 なにそんなに慌てるの？
友也 なんでもねえよ！
時子 あはは。
和弘が墓地の端から出てくる。
和弘 おい！ うるせえぞ！
美咲 わー！ ごめんなさい！
時子 ごめんなさい！
友也 何が！？
和弘 てめえら、なんでわざわざここでたむろすんだよ！ よそ行けよそ！
美咲 だってだって、学校許可とのめんどくさいし、あたしと普通に話しても変な目で見られないところってここしか思いつかなかったんだもん。
時子 す、すみません。他にいいところ思いつかなくて……。
和弘 だったらもうちょっと静かにしろや！ ここは墓地だぞ！ 他にも眠ってる奴らがいるんだぞ！
時子 ごめんなさい！
美咲 ごめんなさい！

二人で和弘に謝る。

友也　ちょっと、二人ともどうしたの！？

時子　友也君も謝ろう。こういうのは誠意が大事だから！

友也　謝るって誰に！？

時子　誰にとって、え、もしかして、見えてないんですか？

友也　あ、もしかして……。

美咲　前話してた、時子さんの身内かもしれない人だよ！

和弘　はあ。いつかはこうなるかと思っただけど、こんなにも早いとはな……。

時子　あの、お兄さんは、その、幽霊、なんですか？

和弘　ああ、まあ、そうなる。

時子　その、お名前聞いてもよろしいですか？

和弘　……。和弘。

時子　苗字は？

和弘　田邊。田邊和弘だ。

時子　あの、失礼ですが、亡くなったのはいつなんですか？

和弘　15年くらい前だ。生きてたら俺は40歳だったな。

時子　最後に、この指に見覚えはありますか？

和弘　指輪？

時子は指に着けている指輪を和弘に見せる。

和弘　そいつは……。そうだ、あの図書館でみた。俺が、娘に渡すことが出来なかった……。

……。はは、やっぱりそうなんだな。時子。

時子　パパ……。

友也　え、パパ？

美咲　強い思いが籠った物。その指輪が、お兄さんの？

和弘　それは俺が死ぬ前、時子の誕生日の為に買った奴、らしい。

和弘の様子が少しずつ変わっていく。

和弘　ああ、そうだ。喜んでほしくて、急いでたんだ。

時子　縁日だったよね。

和弘　お前の誕生日の前日に行ったんだったな。

時子　この指輪。

和弘　お前が欲しいって言ってたやつ。

時子　目の前で別の人に取られちゃったんだ。

和弘　あの時、泣きじゃくって大変だったんだよ。

時子 あはは、ごめんね。
和弘 だから、次の日同じやつを見つけたときはテンション上がった。
時子 ママから今日はパパは遅くなるって聞いた。
和弘 驚かせようとしたんだ。
時子 誕生日なのに、なんでって、私、怒った。
和弘 嘘ついてごめん。本当はその時には、家に向かってたんだ。
時子 でも、パパは、そのまま帰ってこなかった。
美咲 あ……。
和弘 ……。
時子 パパは、私の誕生日に嘘をついて、もう帰ってくることはなかった。ママが、その
和弘 まま遠くに仕事に行っちゃんだよって、言ってた。
時子 ……。
和弘 パパが交通事故で死んだってちゃんと聞いたの、ここ数年の事だったんだよ。
時子 そうか。
和弘 ママはいつも、私の為に嘘をつくんだ。パパの時も大学のお金の時も……。
時子 すまない。
和弘 私の両親は二人とも嘘つきだ。
時子 ……。
和弘 会えて、良かった。しかも、今日に……。
時子 え……。
和弘 私、まだパパに言ってもらってない。今日は何日？
時子 今日は……。あ。
和弘 ね？
時子 誕生日おめでとう。時子。大きくなったな。
和弘 ……うん！
時子 すまない……。俺は、お前たちを幸せにしてやれなかった……。
和弘 パパが先に死んじゃったのは悲しかった。でも、今は私、幸せだよ。
時子 ……本当か？
和弘 お金の面で苦労はしたけど、今は大学にも通えてる。こうやって一緒に目標に向か
時子 って頑張ってる友達もできた。それに、パパに会えた。
和弘 ……。
時子 私もう大人だよ？ パパなんかいなくても、自分の幸せは自分でつかんで見せる。
和弘 はは、参った。いい女になったな。ママにそっくりだ。
時子 でしょ。
和弘 俺はお前みたいな娘を持って最高に幸せだ。美咲。
美咲 え、あ、はい！
和弘 ありがとうな。
美咲 はい。

和弘の体が消えていく。

和弘 契約終了か。
時子 パパ……。
和弘 美咲！
美咲 はい！
和弘 未練や後悔なんてな、表面上では分かりにくいもんだ。それが奥深くにあるほどに
美咲 な。俺たちは結局一人では生きていくことはできない、人間なんだ。
和弘 どういうこと？
美咲 自分で考えろ。いいか忘れんじゃねえぞ。先輩からのアドバイスだ。時子。ママと
時子 仲良くな。じゃあな。
時子 うん。ばいばい。

和弘はその場から消滅する。

美咲 消えちゃった……。
友也 どうなったんだ？
時子 行っちゃったみたい。
美咲 未練が、無くなったのかな。
友也 成仏？
時子 多分。
美咲 これが？
時子 友也君。
友也 はい。
時子 帰ろうか。
友也 はい。

三人は墓地を後にする。

○学校

同時刻。放課後の学校。香苗がスマホを操作して、投稿された友也の動画を見ている。麗奈はそれを眺めている。

香苗 あの後撮ったんだ。
麗奈 何それ？
香苗 私たちが、美咲の為にやってたことだよ。
麗奈 ふーん。
香苗 変に思わないんだね。
麗奈 香苗が間違ってることなんてないもん。私には分からないけど、きっと何か意味がある事なんですよ？
香苗 うん。とっても大切なんだ。

麗奈　なら、私が変わに思う事なんてないよ。

香苗　ありがとう。

麗奈　どういたしまして。

香苗　これを拡散しなくちゃ、もっと沢山の人に見てもらわないと。

麗奈　これを広めればいいの？

香苗　そうだけど……。

麗奈　じゃあ、私のSNSでもフアボっとくよ。

香苗　いいの？

麗奈　うん。バズるか分からないけどね。

香苗　ありがとう！　そうだ、他の友達にも、拡散してもらえないかお願いしてくる！

麗奈　それいいね！　少しずつ拡散していこう！

香苗　ありがとう！　麗奈！

香苗は嬉しそうに教室を飛び出していった。

麗奈　可愛い。香苗大好き。

スマホを操作し、友也が登校した動画を再生する。

麗奈　嫌なものは嫌なんだよね。そうだ。裏垢で炎上させちゃおう。違反報告もしちゃおうっと。

スマホを操作していく麗奈

麗奈　さっさと安藤さんなんて忘れよう。香苗は私のそばにいればいいんだから。

教室を後にする麗奈。

○墓地

美咲、時子、友也で相談をしている、

友也　これを見てください。

時子にスマホを見せる。

時子　これはひどいね。

画面には投稿した動画の画面。しかしそこには、動画を再生できませんの文字と大量のアンチコメント。

美咲 なにこれ！ 誰がこんなことしたの？
友也 誰でもないよ。これを見た不特定多数がこれをやってるんだ
美咲 んー。

時子 そうでもないと思うよ。

友也 どういうことですか？

時子 まだ投稿されたばかりの対して広まってもない動画に、こんなにアンチが付くなんてありえない。それにこの違反報告。

友也 これが？

時子 違反報告なんて、著作権侵害か、公序良俗に反する動画ぐらいしか実質あんまり効果はないの。でも、こんなにたくさんつくなんて。

美咲 え、え、どういう事？

友也 つまり。誰かが意図的に俺たちの動画を叩いてるってことですか？

時子 多分。じゃないと、納得できない。美咲ちゃんの作った歌も友也君の歌声もすごくよかったもん。

友也 あ、ありがとうございます。

声には出さないが、満足気な美咲。

友也 でも、犯人を捜している時間はありません。

時子 アンチはしつこいからね。新しい動画を投稿してもまた炎上するだけだと思う。何か新しい手を考えないと。

スマホを眺めている美咲

美咲 あ。

友也 どうした？

美咲 うふふ。

友也 なんて、うれしそうなんだよ。

美咲 ねえ、わがまま言ってもいい？

友也 今更お前のわがままなんて驚きもしないよ。

美咲 じゃあさ、あたし、ライブしたい！

友也 ライブウー！？

美咲 うん！ 路上ライブしようよ！

友也 路上ライブって、駅前とかでよくやってる奴だろ？

時子 たしかに、お客さんに直接見てもらえるライブなら。アンチも邪魔できないかも。

美咲 うん！ それに、ほら！

登校した動画の画面を見せる。そこには、アンチコメントの中に、すごい好きなタイプ！直接ライブで見たい。というコメント。

友也 これ……！
美咲 うん、今びびびって来た。これがあたしの未練なんだ。あたし、あたしの音楽を聴いて感動してる人を見たい。
友也 お前、それがどれだけ大変なことかわかってんのか？
美咲 分かってるよ。でも、友也はやってくれるんでしよう？
友也 当たり前だろ。
時子 次の目標が決まったね。
友也 やるならほら、時間がない。早速準備をしよう。
時子 うん。
美咲 うん！

時子は手続きをしに、友也と美咲は歌のクオリティを上げるために解散する。

○学校

ある程度拡散に成功し、喜んでいる香苗。

香苗 ある程度バズらせるなんて、友達に頼めば簡単じゃん。再生数も伸びてきてるし、このままいけば……。あれ？

登校された動画の画面を確認して、動画が炎上するのを見つける。

香苗 え、なんで？ 炎上してる。なんでこんなことになってるの？

麗奈が現れる。

麗奈 どうしたの？
香苗 昨日見せた動画が炎上しちゃったの！
麗奈 炎上？
香苗 ひどい、こんなコメント。人としてどうかしてる。
麗奈 なんで？
香苗 なんでって、みんなで一生懸命準備してやったんだよ？ それなのに、クズとか、耳障りとか、なんでこんなこと言えるの？
麗奈 そんなの動画を見る人からしたら関係ないからだよ。
香苗 え？
麗奈 動画しか見てない人が、なんでその人が頑張ったことを評価するの？ 友達でもないのに。
香苗 麗奈？
麗奈 香苗もさ、いつまで安藤さん安藤さん言ってるの？ もう死んじやってるんだよ？
香苗 それは、そうなんだけど……。でも。
麗奈 それにこれ、川村君だよ？ やっぱり仲いいよね？ 付き合ってるの？

香苗 そんなわけない。あいつと付き合うわけないでしょ？

麗奈 じゃあ、なんでこんなことしてるの？

香苗 それは……。

麗奈 私はね。香苗の事大好き。私よりも成績が良くて、可愛くて、自信があって、みんなから愛されてる香苗が好き。だって、私にないもの持ってるんだもん。私はね。自分に自信がないんだ。ずっと下向いてる。香苗がいなかったら友達もできなかつたと思うな。だって、私、友達が他の人と仲良くしてるの見るのがすごく嫌なんだもん。香苗はすつごく優秀なのに、友達が少なかつた。なんでだろうね。ねえ、拡散をお願いした人たちの事友達だって言ってたけど、本当に友達だった？ みんなどんな顔してた。ねえ。ねえ？

香苗 ……。戸惑ってた。

麗奈 なんでだろうね。友達だったらそんな反応しないよね。私は喜んでやったよ？ 裏垢もたくさん作って、10画面くらい同時に再生させたよ？ コメントもいっぱい書いたよ？ 正直この動画開いてるのは、吐くほど嫌だったけど、香苗のために頑張ったよ？ がんばったんだよ？ ねえ、褒めてよ。香苗の為にがんばった麗奈を褒めてよ。

香苗 まって、たくさんコメントしたって……？

麗奈 ああ、このコメントはほとんど麗奈だよ？ だって、しょうがないじゃん。本当に耳障りだったんだもん。一生懸命我慢したんだ。だって、なんで自分の大好きな人と付き合ってるかもしれない男の歌なんて聞かないといけないの？ 気持ち悪くて何回も吐いちゃった。でも頑張ったよ？ 香苗の為にがんばった、大好きな大好きな香苗の為にいっぱい頑張った。ねえ、どうかな？ 麗奈、香苗の為に……？

香苗、麗奈の事好きになった？

香苗 そんなの、好きになれるわけじゃない……。

麗奈 なんで？ あたしが頑張ったこと認めてくれないの？

香苗 認める認めないじゃないよ……。

麗奈 ねえ、香苗。

香苗 近づかないで！

麗奈 ……え。

香苗 来ないで、お願い……。

麗奈 どうしたの？ 麗奈の事わからなくなっちゃったの？

香苗 あんたは、私の知ってる麗奈じゃない！

麗奈 香苗？

香苗は教室から飛び出す。

麗奈 待ってよ。香苗。ねえ！ ……。ふーん。そう。でも大丈夫だよ。香苗は今ほちよ

っと疲れてるだけなんだ。私が、香苗を元に戻してあげるから。

麗奈も教室を出ていく。

○友也の家

洋子が食事支度をしている。友也が美咲を連れて帰ってくる。

友也 ただいまー。

美咲 ただいまー！

美咲はさつさと友也の部屋に行く。

洋子 お帰り。今日は何してたの？

友也 別に、友達と勉強してただけだよ。

洋子 あらそう。

友也 なに？

洋子 あんた、最近楽しそうね。

友也 え？

洋子 美咲ちゃんが亡くなってから、元気がなかったじゃない。ずっとひどい顔してたのよ。

友也 そうなの？

洋子 本人には分からないものなのね。なんか楽しいこと見つけたの？

友也 いや、別にそういうわけじゃないけど……。

洋子 そう。美咲ちゃんが亡くなって私も悲しかったけど、息子のあんたが元気なのは親

としてはもっと悲しかったわ。

友也 そういふもの？

洋子 そういふものよ。

友也 ……。そう。

洋子 今日はあんたの好きなスターゲイジーパイよ。

友也 え、マジ？

洋子 まったくなんでこんなのが好きなのかしらねえ。あの人に似たのかしらね。

友也 ……。なあ。

洋子 なあに？

友也 なんて、母さんは、あいつと結婚したんだ？

洋子 あいつってお父さんの事？ だめよ。親の事あいつなんて言っちゃ。

友也 いいから。

洋子 えー。えつとね。最初っていうか、お父さんから熱い告白を貰ったのよ。

友也 は？

洋子 洋子さん僕と結婚してください！ 僕はあながいないと生きていけません、つ

て。笑っちゃうでしょ？

友也 う、うん。

洋子 昔は本当にかっこよかったのよ。喧嘩が出来るわけじゃないのに、ナンパに絡まれ

てるところを助けてくれたりしたし、ご飯沢山食べるところとか可愛いかったし、

変な食べ物が好きなどころとか、个性的でいいなって思ってた。そんな中で、あん

友也 なセリフでしょ？ 思わず笑っちゃって、特に考えずに結婚をOKしちゃったわ。……。結婚したこと後悔してる？

洋子 たしかに、今のお父さんはちよつと良くないけど。でもね、そのことを一番わかっ
てて辛いのはお父さん本人なの。この間はちよつと当たっちゃったけど、それでも、
お母さんはお父さんを支えたいって思ってるのよ。それが夫婦になるって事。

友也 夫婦か。

洋子 ええ、病める時も、健やかなる時も、富める時も、貧しき時も、妻として愛し、敬
い、慈しむ事を誓う。

友也 何それ。

洋子 結婚する時に神様に誓うの。

友也 なんで？

洋子 神様に誓ってもいいくらい、貴方と一緒にいたいって事よ。

友也 ……。

洋子 もう、何言わせるの恥ずかしいじゃない。お母さん先にお風呂入っちゃうからね。
友也 うん。

美咲が顔をのぞかせる

美咲 相変わらず仲がいい夫婦だね。

友也 見てたのか。

美咲 ダメだった？

友也 ダメだった。

美咲 ごめんって。

友也 はあ。

美咲 うらやましいな。

友也 なんで。

美咲 うち、お父さんとお母さん仲悪かったみたいだからさ。

友也 そうだっけ。

美咲 そんなにはっきり覚えてないけどね。でも、いつもお父さんの事ばやいてた。お父
さんのせいで音楽が嫌いになったって。

友也 そうだったのか……。

美咲 うん。

友也 なあ、明日ライブをしたら、多分お前は成仏すると思うんだ。

美咲 うん。

友也 お母さんに会いに行かないか。

美咲 ……。

友也 まだ怖いか。

美咲 うん。

友也 そうか……。

美咲 実はね。成仏するのちよつと怖かったんだ。

友也 え？
美咲 成仏って結局何なんなのかな？
友也 天国に行くんだろ？
美咲 天国って本当にあるのかな。生きてる人たちが想像で言ってるだけで、結局何が起
こるのか誰も教えてくれなかったじゃん？
友也 たしかに。
美咲 だから、怖かった。でも、お兄さんが成仏する時にね。すごくいい顔してたんだ。
友也 幽霊の先輩か？
美咲 そう、すごく満足した顔してた。あたし、あんなに素敵な顔初めて見た。あんな顔
をする人が、これから向かうところが怖いところだなんて思えなくなったんだ。
友也 そうか。なら、今は？
美咲 今は成仏するの怖くない。でもね、お母さんにあつたら、未練が増えそうなんだ。
友也 だから、できればこのまま会わずに、終わりたい。
友也 分かった。
美咲 ごめんね、最後まで振り回しちゃって。
友也 今更なんだよ。気にするな。気にするな。
美咲 ありがとう。
友也 ああ。
美咲 あはは。
友也 なに笑ってんだよ。
美咲 だって、あたしたち高校生なんだよ？ それなのに、こんなに死ぬとか生きるとか、
愛とか幸せとか、人生の後悔だとか、難しい話して、そして、明日、目の前の見知
らぬ誰かの為に全力で音楽を届けようとしてるの。あたしたち、めっちゃかっこよ
くない？
友也 そうだな。俺たち、その辺の高校生と比べたらめっちゃかっこいいな。
美咲 だからさ、最後までかっこよく死んでたい。
友也 ああ、美咲らしい。その辺のやつよりずっとお前は生きてるよ。
美咲 でしょ！
友也 明日がんばろうな。
美咲 うん、がんばるのは友也だけだね
友也 たしかに。お休み。

一日が終わる。

○美咲の家

家の前に香苗がいる。

香苗 もう一度、何か、美咲を助けるヒントを見つけないと。

家のチャイムを押そうとすると同時に美知子が家から出てくる。

美知子 あら、香苗ちゃん？ どうしたの？ 学校は？

香苗 あ、こ、こんにちは。えっと、今日はちよつと休んでて……。

美知子 そうなの？ 体調には気をつけてね？ 若いからってどんな病気を貰うか分からないんだから。

香苗 心配してくれてありがとうございます。それであの……。

美知子 ごめんなさい。何か用があつたんでしょう？

香苗 はい、あの、また美咲の部屋を見せてもらえないでしょうか？

美知子 美咲？

香苗 はい、また、貸していたのがあつたのを忘れていて……。

美知子 えっと、美咲ちゃんって誰の事？

香苗 え？

美知子 ごめんなさい、えっと、美咲ちゃんね、えっと、あ、向かいのお家の娘さんかしら？

香苗 いや、違いますよ。美咲ですよ。美知子さん！

美知子 美咲なんて子、私の知り合いには……。

香苗 知り合いとかじゃなくて、美知子さんの娘の安藤美咲ですよ！

美知子 娘？ 私に娘なんて……。あ、美咲？ 美咲！

香苗 美知子さん！？

美知子 本当に忘れてた……。これが代償……。

香苗 美知子さん？ 美咲の事思い出したんですか？

美知子 あ、ごめんね。うん、ちゃんと思いついたわ。私の大切な娘ですもの。

香苗 大丈夫ですか？ 体の調子が悪いんじゃない。

美知子 大丈夫よ。

音楽プレイヤーを取り出す。

美知子 あつた。

香苗 プレイヤー？

美知子はプレイヤーの中の一つだけ入っている音楽。美咲の作った歌を再生する。

美知子 ああ、美咲……。

香苗 これって、美咲の曲。

美知子 貴方たちが見つけてくれたのよね。あの子が残したこの音楽を。

香苗 えっと、すみません。パソコン勝手に触って。

美知子 いいの。私だったら、きつと見つけられずに処分していたから。データを残しておいてくれてありがとう。

香苗 いえ……。

美知子 皮肉よね。あんなに毛嫌いしていた音楽が、今じゃこんなにも愛おしい物になってるなんて。あの人が聞いたなら、笑っちゃいそう。

香苗 あの人って？

美知子 美咲のお父さん。私の旦那さんよ。あ、ごめんね。変な話しちゃって。

香苗 いえ！聞かせてください！

美知子 そんなに面白い物じゃないわよ？

香苗 美咲の事もっと知りたいんです。昔、私が引越してから、10年以上空きました。あの時はまだ美咲のお父さんも生きてたはずですよ。教えてください。美咲と、家族の間で何があったか。

美知子 ……。いいわ。香苗ちゃんなら話してもいいかな。でも、本当に大した話じゃないの。どこにでもある。ちよっと不幸な話。

香苗 でも、それは美咲にも、美知子さんにも大切なお話のほうですよ。

美知子 そうね、私たち家族の大切な話。お父さんが亡くなったのはね、香苗ちゃんが引越した次の年だったわ。香苗ちゃんが急に引越して落ち込んでた美咲にはさらに辛い出来事だった。あの子の音楽好きになったのもお父さんの影響だった。

○回想

幼いころの美咲の記憶。少し若い美知子。

美咲 ねえ、お母さん。お父さんは？

美知子 お父さんはね。ちよっとお仕事で遠くに行っちゃったの。

美咲 お仕事？ お歌の？

美知子 え？

美咲 お父さんはバンドってお仕事やってるんだよね？ お歌を歌うお仕事。

美知子 お父さんが言ってたの？

美咲 うん、いつかカートコバーンみたいな世界的ロックスターになるんだって、前話してた。

美知子 そう……なの……。

美咲 あ。

美知子 どうしたの？

美咲 これ、お母さんに言っちゃダメって言われてたんだ。えっと、今の内緒にしててね？

美知子 ……。

美咲 お母さん？ どうしたの？

美知子 美咲。お歌の事は忘れなさい。

美咲 え？ なんで？

美知子 なんでもよ。音楽はね。私たちが不幸にするの。

美咲 だって、お父さんいつも楽しそうに歌ってたよ？

美知子 だめなの。お母さんは、貴方まで音楽で失いたくない……。

美咲 お母さん？ おなか痛いのか？

美知子 大丈夫。ほら、帰りましょう。今日は美咲の好きなスパゲッティにするから。

美咲 うん！

回想終了

美知子 お父さんはバンドマンだった。私はお父さんの夢を否定はしなかったけど、肯定もできなかった。歌を作っても作っても大して売れず、バイトと掛け持ちでいつも徹夜で。曲作りが上手くないときは当たられもしたわ。私も働いていたから、お金に困る事はさほどなかったけど、お父さんは男と、父親のプライドとして、働くことをやめなかった。そして、いつの間にか、過労で死んじゃった。

香苗 そんなことが……。

美知子 音楽は私たちを不幸にする。私は美咲に音楽と関わるのをやめてほしかった。でも、やっぱりあの人の子よね。一度ついた火は簡単には消せなかった。だから、あの日、あの日……。あれ？

香苗 美知子さん？

美知子 えっと、あの日、美咲が事故にあった日、なんで家から飛び出たんだっけ？えっと、だめ、思い出せない。やっぱり、抵抗しても無駄なのね……。

香苗 大丈夫ですか？

美知子 ええ。大丈夫。私が耐えればいいだけの事だから……。

香苗 耐えるって、どういう……。

香苗の携帯が鳴る。登校した動画のチャンネルからのメッセージが届いた。

香苗 なに？

スマホをのぞき込む香苗

香苗 え、ライブ？ 明日？……。

美知子 どうしたの？

香苗 明日、夕方時間ありますか？

美知子 大丈夫だけど。

香苗 そしたら、16時に迎えに行くので準備をしておいてください。

美知子 どこかに行くの？

香苗 美知子さんに見せたいものがあるんです。

美知子 ……分かったわ。

香苗 ありがとうございます。それじゃあ、また明日。

美知子 ええ。

香苗はその場を後にする。

美知子 少しでも、忘れないように。

音楽プレイヤーを再生して家に戻る。

○駅前

路上ライブの準備をしている友也と時子。周りの様子を眺めている美咲

美咲 これからここに歩いてる人たちに向かって歌うんだね。

友也 動画で撮影するよりずっと緊張するな。

時子 でも、ここで人を止めることが出来れば、美咲ちゃんの曲の魅力は本物ってことだよ。

友也 絶対成功させる。

美咲 頼りにしてるよ。

友也 おう。

時子 ……。

周りをぼーっと眺めている美咲

友也 なあ。

美咲 何？

友也 不破の事もいいのか？

美咲 香苗は……。正直会いたいかな。

友也 チャンネルのコミュニティにメッセージは流した。見ていたら来るはずだ。

美咲 うん。でも、いいの。もう時間がない。そんな気がする。

友也 分かった。

時子 準備できたよ。友也君が良ければいつでも行けるよ。

友也 ありがとう。

時子 がんばってね。

歌う準備を始める友也。隣にいる美咲

友也 はあー。うし。

時子に合図を送る。アンプから音楽が流れ始める

「影追い (仮)」

最初はぎこちないながらも歌いだしは好調。つつがなく歌い上げる。美咲もそわそわしながら様子を見ている。しかし、サビに近づくにつれて歌い方がぎこちなくなっていく。

SNSの効果か少しずつまばらに人が集まり始めていく。友也の中で音が遠くなっていく。

友也 これを歌いきったら、お前は消えるのか？ また会えたのに。ずっとこのまま入れたいのに……。

美咲の顔を見る。心配している表情で友也を見守っている。

友也 ダメだよな……。でも、最後に一つだけ……。

友也は歌をやめてしまう。

友也 はあはあ……。

観客 おい、どうしたんだ。

観客 トラブル？

観客 最後まで歌えないとかそりゃアンチも増えるわ。

観客 あの動画の叩かれ具合すごいよね。

観客 でも、これなら仕方ないよね。

美咲 友也？

友也 つ！ 皆さん。足を止めてくれて、ありがとうございます。僕らは動画で歌動画を

投稿したりして、活動しています。今日は初めての路上ライブです。緊張で死にそうです。途中で歌うのやめちゃってすみません！

と、友也？？

友也 この曲は僕らの唯一のオリジナルソングで、ある女子高生がこの世にたった一つ

残した最高の一曲なんです。その子はとてもバカでした。夢を見て、親に反抗して、俺にはわがままばかり言ってくる。自分勝手な奴かと思ったら、変に気を使って、傷ついて、落ち込んで、感情がすごい忙しい奴です。そんな奴が夢見たのは世界中の人間に自分の事を知ってもらおう。自分の音楽でカートコバーンみたいにみんなに大好きになってもらって、27歳でいきなり死んで、世界中の人から自分の事を忘れなくさせてやるという、とんでもない夢でした。

そこへ香苗が連れてきた美知子と別方向から麗奈も現れる。香苗は交換日記を持っている。

香苗 あいつ、何いってんの？

美知子 あの子は……。

美咲 ちよつちよつと、友也？

友也 俺は、そんなとんでもない奴が大好きでした！

美咲 ええ！？

友也 そいつは先日事故で亡くなりました。17歳です。死ぬには10年早いはずですが。だから、あいつにはあいつの周りにしかあいつの事を好きになるやつがいなかった。みんな、どうか、あいつの事を、好きになってくれ！

……。

美咲 おい。

友也 え？

友也 何ぼーつとしてんだ。

美咲 えっと。

友也 お前も歌え。お前が作ったんだろ。

美咲 ……うん！

友也 もう一度聞いてください。

美咲友也 「影追い」

二人で歌いだす。それを見ている、香苗、美知子。麗奈、観客たち。

最後まで歌い切り、満足げな表情の二人、そこに、香苗に連れられて、美知子が二人の前にやってくる。

香苗 美咲

美咲 香苗、お母さん……。

美知子 素敵な歌だったわ。

美咲 私が見えるの？

美知子 そこにいる貴方は、私の娘なのよね。

美咲 え？

美知子 いえ……。私は音楽が嫌いだった。音楽があの人を奪っていったから。

美咲 知ってる。

美知子 音楽が娘も奪っていった。

美咲 ……。

美知子 ごめんね。娘の事を考えてると思っていたのに、結局は自分の為だった。あの人を奪った音楽が、貴方を連れて行ってしまおうと思って、怖かった。でも、結局、娘を失ってしまった。

美咲 お母さん？

美知子 曲を聞いたわ。貴女が作った曲。

美咲 あ。

美知子 やっぱり、あの人の子なのね。

美咲 うん。

美知子 素敵な歌を作れるのね。

美咲 うん。

美知子 教えて、何て名前でも活動していくの？

美咲 美咲だよ。私はお父さんとお母さんにもらったこの名前を世界中に広めたいから。

美知子 そう、やっぱり、あの人の子ね。

美咲 うん。

美知子 ありがとう、貴方の夢を奪ってごめんなさい。

美咲 ううん。お母さんとまた話せてよかった。あたしの為にいっぱい苦しい思いさせてごめんね。

美知子 私は本当の意味で娘の幸せを願うことが出来なかった。でも最後は貴方のお母さんでいさせて。

美咲 お母さんはあたしのお母さんだよ。

美知子はナイトメアに語り掛ける。

美知子 メア。契約を完了させて。私の記憶を全て持って行って。
メア(声のみ)かしこまりました。

美咲 お母さん？

美知子 美咲。貴女を愛してる。私のたった一人の大切な娘。次こそ、夢をかなえてね。

影の男が美咲の目の前に現れる。

美咲 あんた。そうか、もう時間なんだね。はい。

美咲は持っていた本を渡す。

美咲 取りに来たんでしょ？ この本が私をこの世に留めてくれてたんだね。ありがとう。
う。

影の男は本を受けとり、消えていく。美咲の周りを光が包み込む

友也 美咲！

香苗 美咲！

美咲 始まったのかな。

香苗 美咲、ごめんね。貴女の事を思ってるつもりだったのに、全部から回って……。あの時もいきなり引越しちゃって……。

美咲 香苗。私も香苗の事大好きだよ。だから、そんな悲しい顔しないで。

香苗 だって、私はいつも美咲の事を悲しませてばかりなのに……。

美咲 ちゃんとわかってたよ。香苗はいつも私の事第一に考えてくれるんだもん。不器用でも一生懸命な香苗があたしは大好き。

香苗 私も美咲が大好き。

美咲 今までありがとう。交換日記は香苗が持ってた。

香苗 うん。返事書いて待ってるからね。

美咲 うん。

友也 美咲！

美咲 友也……。

友也 えっと……。

美咲 バーカ！

友也 ……は？

美咲 おせーんだよ！

友也 わりい。

美咲 あはは。次はヘタレンなよ！
友也 うるせえ！ バーカー！

美咲 じゃあね。時子さんにありがとうって言うっておいてね。

友也 ああ。またな。

美咲 ……。うん！ またね！ みんな！ 大好きだよー！！

美咲は光に包まれて消滅していく。

友也 行ったか。

香苗 うん。

香苗を見つめている麗奈を見つける。

香苗 麗奈？

麗奈 また明日ね。香苗。

香苗 う、うん。

麗奈は帰っていく。

友也 帰ろう。

香苗 うん。

全員。家路につく。

○虚空

何もない空間。ナイトメアと影の男が対峙している。

メア すっかり邪魔をしてくれましたね。おかげでかなり時間がかかってしまいました。貴方は何者ですか？

影の男 僕は別に、ただのしがない図書館の管理人さ。

メア 図書館の管理人。ああ、貴方が。

影の男 仕事の邪魔をして悪かったね。

メア 貴方ほどの人がなんでまた。

影の男 頼まれたのさ。彼女の父親に。

メア おや。それはそれは。

影の男 僕も君も彼女の運命には干渉できない。彼女の死は決定していた。僕にできることは可能な限りその苦しみを取り除いてあげる事。

メア 彼女は母親が自分の事を忘れているとは知らないまま生まれ変わりました、それは残酷では？

影の男 17歳の少女にその恐れを抱かせるほうが、酷じゃないかい？

メア 万が一、彼女が自分が生まれ変わったことを他人に伝えたら、その場で彼女は死にます。それでもよろしいので？

影の男 大丈夫。それを何とかするの、彼女の父親との契約のうちだからね。

メア 私は、彼女たちの不幸を望んでいるわけではありません。私の仕事の邪魔をした責任はしっかりとつてくださいね。

影の男 もちろん。

メア では、またお会いできましたら。ごきげんよう

影の男 ああ。

メアは去って行く。影の男の所に和弘がやってくる。

影の男 やあ。いろいろありがとう。おかげで助かったよ。

和弘 二度と娘に会えないと思ってたんだ。これぐらいお安い御用だ。

影の男 その割には文句を言っていたみたいだね。

和弘 うるせえ。

影の男 全て思い出せたかい？

和弘 ああ、おかげさまでな。

影の男 それはよかった。ではこれにて、僕との契約は完了だ。ご苦労様。

和弘 ああ、さんきゅな。

影の男 じゃあね。

和弘が消滅する。

影の男 死者の憂いは。やはり、見ていて悲しい。なるべくみんな幸せになつてほしいものだ。もつとも、僕の体は一つしかないの、限界があるけどね。じゃあね。人間たち。お幸せに。

影の男も消失し、空間が崩壊する。

エピローグ

○学校

イヤホンで美咲の音楽を聴いている友也。香苗が教室に入ってくる。

香苗 川村。あんた何してんの？ 進路希望出してないのあんただけなんだけど。

音楽を聴いていて気づかない友也

香苗 川村！

友也 おうあ！ 不破？

香苗 もう、そんなんじゃ。美咲に笑われるわよ。

友也 あいつは何もしなくても俺を笑うよ。

香苗 それもそうね。

友也 何しに来たんだけ？

香苗 進路希望！ 出していないのあんただけなんだって。

友也 ああ、悪い悪い。

カバンの中をあさる友也

香苗 進路決めたの？

友也 ああ、俺は……。

完